

RXファミリ

R01AN3859JJ0113

Rev.1.13

RX Driver Package Ver.1.13

2017.10.20

要旨

本書は、RXファミリ用RX Driver Package Ver.1.13のユーザーズマニュアルです。

本ユーザーズマニュアルでは、RX Driver Packageの構成、特徴、使用方法とRX Driver Packageを利用したサンプルアプリケーションプログラムについて説明します。

なお、旧Ver.のRX Driver Packageは以下のURLにアクセスし「サンプルコード」から入手できます。

RX Driver Package ページ : <https://www.renesas.com/rdp>

動作対象デバイス

RX110 グループ、RX111 グループ、RX113 グループ、RX130 グループ

RX210 グループ、RX230 グループ、RX231 グループ、RX23T グループ、RX24T グループ

RX24U グループ

RX63N グループ、RX64M グループ、RX65N グループ、RX651 グループ

RX71M グループ

なお、評価ボードはRenesas Starter Kitを使用しています。

お客様の製品にてご利用される際は、お客様の環境に合わせて十分に評価してください。

また、本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合、そのマイコンの仕様にあわせて変更し、十分評価してください。

動作確認に使用した e² studio

V.6.0.0を使用しています。

e² studio 上から最新のRX Driver Packageを取得できます。「4 使用方法」ではその方法について説明します。

関連ドキュメント

RXファミリ ボードサポートパッケージモジュール Firmware Integration Technology (R01AN1685JJ)

Firmware Integration Technology ユーザーズマニュアル(R01AN1833JU)

RXファミリ e² studio に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1723JU)

RXファミリ CS+に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1826JJ)

RX Driver Package Application に付属するユーザーズマニュアル

目次

| | |
|---|----|
| 1. 概要..... | 3 |
| 1.1 適用..... | 3 |
| 1.2 動作確認環境..... | 3 |
| 2. RX Driver Packageとは..... | 4 |
| 2.1 RX Driver Packageの特徴..... | 5 |
| 3. RXファミリ用RX Driver Packageの構成..... | 6 |
| 3.1 フォルダ構成..... | 6 |
| 3.2 FITモジュール一覧..... | 7 |
| 4. 使用方法..... | 10 |
| 4.1 FITモジュールの組み込み..... | 10 |
| 4.1.1 Smart Configuratorの場合..... | 10 |
| 4.1.2 FIT Configuratorの場合..... | 27 |
| 4.2 LED点灯プログラムを作成する..... | 42 |
| 4.3 プログラムをビルドし動作を確認する..... | 43 |
| 5. RX Driver Package Applicationについて..... | 47 |
| 5.1 RX Driver Package Applicationの構成..... | 47 |
| 6. 補足..... | 48 |
| 6.1 製品版（有償）ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアについて..... | 48 |
| 6.2 個別提供の無償ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアについて..... | 48 |
| 6.3 サンプルプログラムについて..... | 49 |
| 6.4 各FITモジュールのAPI情報の格納場所について..... | 49 |
| 6.5 ダウンロードしたRX Driver Packageの確認方法..... | 49 |
| 6.6 FITモジュールの更新方法..... | 50 |
| 6.6.1 説明で使用する環境..... | 50 |
| 6.6.2 FITモジュールを追加する..... | 50 |
| 6.7 追加されたFITモジュールを確認する..... | 51 |
| 6.7.1 Smart Configuratorの場合..... | 51 |
| 6.7.2 FIT Configuratorの場合..... | 54 |
| ホームページとサポート窓口..... | 56 |

1. 概要

1.1 適用

本ユーザーズマニュアルは、RXファミリ用RX Driver Package Ver1.13に適用します。

1.2 動作確認環境

本パッケージの動作確認環境を以下に示します。

表 1-1 動作確認環境

| 項目 | 内容 |
|-----------|--|
| 統合開発環境 | ルネサス エレクトロニクス製 e ² studio V6.0.0 |
| Cコンパイラ | ルネサス エレクトロニクス製 C/C++ compiler for RX family V.2.07.00 コンパイルオプション：統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプションを追加 -lang = c99 |
| エンディアン | ビッグエンディアン/リトルエンディアン |
| RDPのバージョン | Ver.1.13 |
| 使用ボード | Renesas Starter Kit for RX64M (型名：R0K50564MSxxxBE) Renesas Starter Kit for RX231 (型名：R0K505231SxxxBE) Renesas Starter Kit for RX130-512KB (型名：RTK5051308SxxxxxBE) Renesas Starter Kit for RX65N-2MB (型名：RTK50565N2SxxxxxBE) |

2. RX Driver Package とは

RX Driver Package は、マイコンの初期化、フラッシュセルフプログラミング、タイマ制御、UART 通信、A/D 等の基本機能や、USB、Ethernet 等の応用機能を利用するためのソフトウェアパッケージです（OS レス環境向け）。

- FIT ミドルウェアモジュール
- FIT インタフェースモジュール
- FIT 周辺機能用デバイスドライバモジュール
- ボード・サポート・パッケージ(BSP)モジュール

また、RX Driver Package を活用したサンプルアプリケーションプログラム（RX Driver Package Application）を用いることで、ユーザアプリケーション層の開発が容易になります。

2.1 RX Driver Package の特徴

RX Driver Package の特徴を以下に示します。

(1) 必要なモジュールを選択し、すぐにアプリケーションプログラムを開発可能

システムに必要なモジュールをパッケージから選択するだけで簡単にシステムを構築できます。あとはアプリケーションプログラムを開発するだけです。

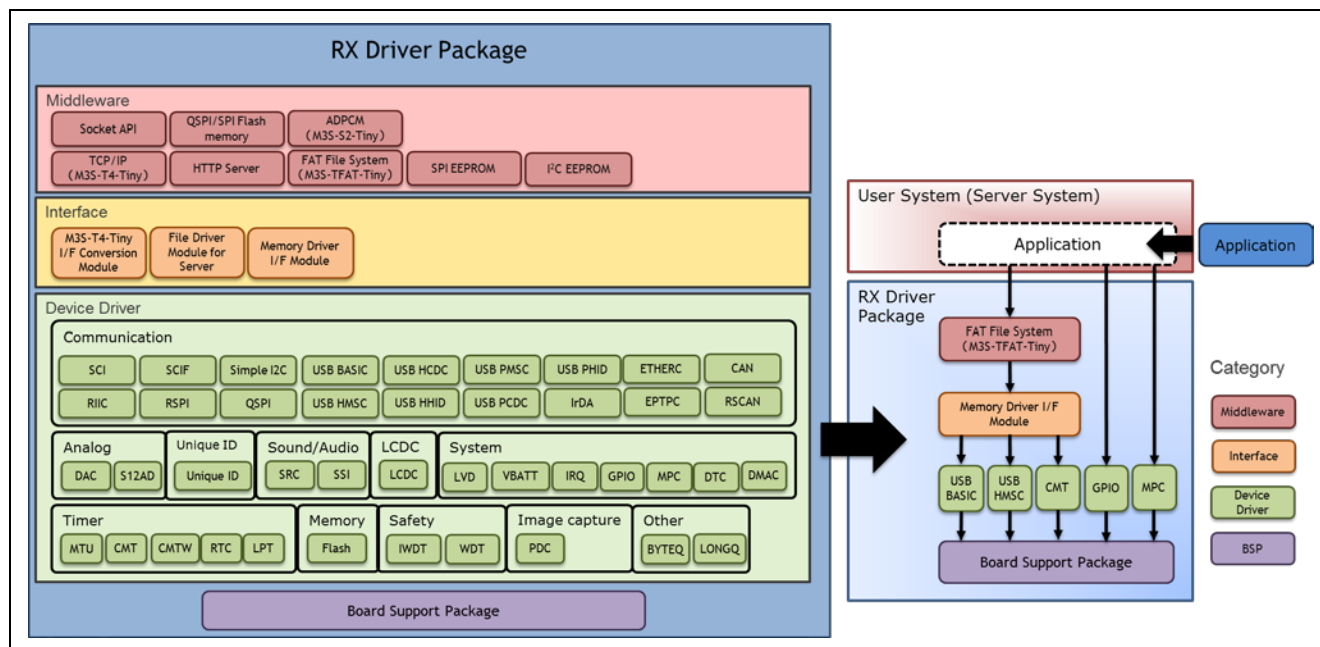


図 2-1 構築イメージ

(2) 無償で利用可能

RX Driver Package に入っているモジュールは、すべて無償で利用することができます。

なお、TCP/IP、ファイルシステム等のミドルウェアモジュールも無償版が入っています。

RX Driver Package がない個別提供の無償ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアに関しては「6.2」を参照し、別途入手してください。

(3) 有償版モジュールへの入れ替えが可能

RX Driver Package に入っている無償版モジュールを製品版（有償）モジュールに置き換えることができます。

製品版（有償）を使用することでモジュールの全機能を使用することができ、また製品版に関するサポートも利用することができます。

製品版（有償）モジュールに関しては「6.1」を参照し、別途入手してください。

(4) ユーザアプリケーションを含めた動作確認が可能

RX Driver Package を用いたユーザアプリケーションのサンプルとして、RX Driver Package Application を提供します。RX Driver Package Application は、RX Driver Package の各種モジュールを動作させるプログラムと、そのプログラムをビルドするためのプロジェクトファイルで構成されています。これにより、すぐにユーザアプリケーションを含めた動作確認を開始することができます。

3. RX ファミリ用 RX Driver Package の構成

3.1 フォルダ構成

本パッケージのフォルダ構成を以下に示します。

ダウンロードした本パッケージの ZIP ファイルを解凍すると、同名のフォルダがあり、その中に「FITModules」フォルダと「reference_documents」フォルダと本ドキュメントが入っています。

「FITModules」フォルダ内には、表 3-1、表 3-2、表 3-3に示す Firmware Integration Technology（以下、FIT と略す）モジュールが入っています（ZIP ファイルと XML ファイル）。また、端子設定機能に対応した FIT モジュールの場合、MDF ファイルが入っています。

「reference_documents」フォルダには、各開発環境へ適用するためのドキュメントが入っています。

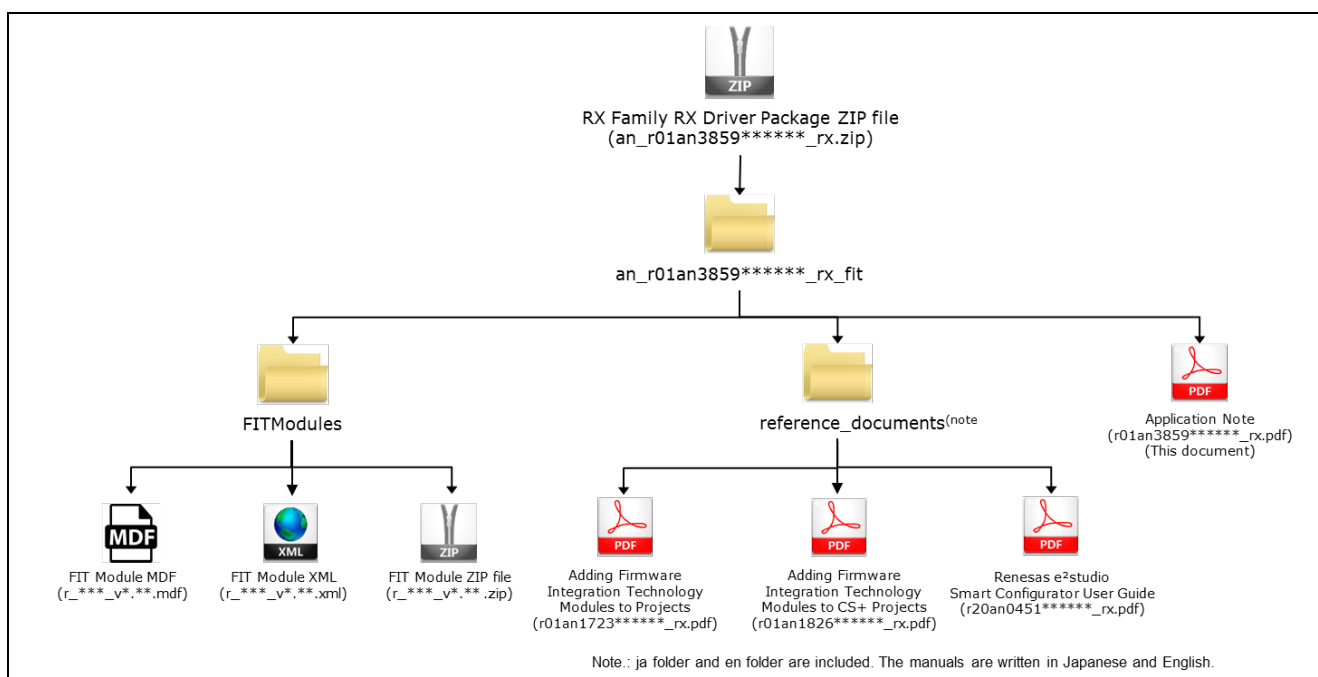


図 3-1 RX ファミリ用 RX Driver Package フォルダ構成

3.2 FIT モジュール一覧

本パッケージに入っている FIT モジュール一覧を以下に示します。

RX ファミリ RX Driver Package Ver.1.12 (R01AN3651) リリース以降に、多くの FIT モジュールが更新されています。RX ファミリ RX Driver Package Ver.1.12 との差分情報を表 3-1、表 3-2、表 3-3に示します。また、差分情報欄に示す用語の意味を以下に示します。

| | |
|------|--|
| 「同一」 | 同一のものを同梱 |
| 「更新」 | 更新されたものを同梱。 更新内容はそれぞれのドライバによって異なりますので、各ドライバのドキュメントの確認をお願いします。 |
| 「追加」 | 今回追加されたもの |

(1) Board Support Package (BSP)

表 3-1 Board Support Package (BSP)

| モジュール名 | FIT モジュール名 | Rev. | 差分情報 |
|-------------------|------------|------|------|
| ボードサポートパッケージ(BSP) | r_bsp | 3.60 | 更新 |

(2) Device Driver

表 3-2 Device Driver 一覧

| モジュール名 | FIT モジュール名 | Rev. | 差分情報 |
|---|------------------|------|------|
| 電圧検出回路(LVD) | r_lvd_rx | 2.30 | 更新 |
| 消費電力低減機能(LPC) | r_lpc_rx | 1.40 | 同一 |
| バッテリーバックアップ機能(VBATT) | r_vbatt_rx | 1.01 | 同一 |
| 割り込みコントローラ(IRQ) | r_irq_rx | 2.20 | 更新 |
| データトランスファコントローラ(DTC) | r_dtc_rx | 2.08 | 更新 |
| DMA コントローラ(DMAC) | r_dmaca_rx | 1.05 | 更新 |
| I/O ポート(GPIO) | r_gpio_rx | 2.30 | 更新 |
| マルチファンクションピンコントローラ(MPC) | r_mpc_rx | 2.30 | 更新 |
| コンペアマッチタイマ(CMT) | r_cmt_rx | 3.20 | 更新 |
| コンペアマッチタイマ W(CMTW) | r_cmtw_rx | 1.30 | 更新 |
| リアルタイムクロック(RTC) | r_rtc_rx | 2.71 | 更新 |
| ローパワータイマ(LPT) | r_lpt_rx | 1.20 | 更新 |
| 独立ウォッチドックタイマ(IWDT) | r_iwdt_rx | 1.80 | 更新 |
| ウォッチドックタイマ(WDT) | r_wdt_rx | 1.10 | 更新 |
| シリアルコミュニケーションインタフェース(SCI : 調歩同期式/クロック同期式) | r_sci_rx | 2.00 | 更新 |
| FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIFA : 調歩同期式/クロック同期式) | r_scif_rx | 1.20 | 新規 |
| FIFO 内蔵シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIFA : シリアルメモリ制御用デバイスドライバ) | r_scifa_smstr_rx | 1.09 | 同一 |
| シリアルコミュニケーションインタフェース(SCI : 簡易 I ² C バス) | r_sci_iic_rx | 2.20 | 更新 |
| I ² C バスインタフェース(RIIC) | r_riic_rx | 2.20 | 更新 |
| シリアルペリフェラルインタフェース | r_rspi_rx | 1.70 | 更新 |
| シリアルペリフェラルインタフェース(RSPI : シリアルメモリ制御用デバイスドライバ) | r_rspi_smstr_rx | 1.14 | 更新 |
| クワッドシリアルペリフェラルインタフェース(QSPI : シリアルメモリ制御用デバイスドライバ) | r_qsapi_smstr_rx | 1.10 | 更新 |
| USB Basic Firmware | r_usb_basic | 1.22 | 更新 |
| USB Host Mass Storage Class | r_usb_hmsc | 1.22 | 更新 |

| | | | |
|--|------------------|------|----|
| USB Host Communication Device Class | r_usb_hcdc | 1.22 | 更新 |
| USB Host Human Interface Device Class | r_usb_hhid | 1.22 | 更新 |
| USB Peripheral Mass Storage Class | r_usb_pmsc | 1.22 | 更新 |
| USB Peripheral Communications Device Class | r_usb_pcdc | 1.22 | 更新 |
| USB Peripheral Human Interface Device Class | r_usb_phid | 1.22 | 更新 |
| USB Basic Firmware mini | r_usb_basic_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Host Mass Storage Class mini | r_usb_hmsc_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Host Communication Device Class mini | r_usb_hcdc_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Host Human Interface Device Class mini | r_usb_hhid_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Peripheral Mass Storage Class mini | r_usb_pmsc_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Peripheral Communications Device Class mini | r_usb_pcdc_mini | 1.02 | 更新 |
| USB Peripheral Human Interface Device Class mini | r_usb_phid_mini | 1.02 | 更新 |
| イーサネットコントローラ用 PTP コントローラ(EPTPC) | r_ptp_rx | 1.14 | 更新 |
| EPTPC Light モジュール | r_ptp_light_rx | 1.11 | 同一 |
| イーサネットコントローラ(ETHERC) | r_ether_rx | 1.13 | 更新 |
| CAN Module (CAN) | r_can_rx | 2.12 | 更新 |
| CAN モジュール(RSCAN) | r_rscan_rx | 1.10 | 同一 |
| IrDA インタフェース(IrDA) | r_irda_sci_rx | 1.01 | 同一 |
| パラレルデータキャプチャユニット(PDC) | r_pdc_rx | 2.01 | 更新 |
| SD ホストインタフェース(SDHI) | r_sdhi_rx | 2.00 | 新規 |
| SD スレーブインタフェース(SDSI) | r_sdsi_rx | 2.00 | 新規 |
| 12 ビット A/D コンバータ(S12AD) | r_s12ad_rx | 2.30 | 更新 |
| D/A コンバータ(DAC) | r_dac_rx | 3.10 | 更新 |
| フラッシュメモリ(内蔵フラッシュ書き換え) | r_flash_rx | 3.20 | 更新 |
| サンプリングレートコンバータ(SRC) | r_src_api_rx | 1.11 | 同一 |
| シリアルサウンドインタフェース(SSI) | r_ssi_api_rx | 1.21 | 更新 |
| LCD コントローラ/ドライバ(LCDC) | r_lcdc_rx | 1.00 | 同一 |
| グラフィック LCD コントローラ(GLCDC) | r_glcde_rx | 1.00 | 新規 |
| ユニーク ID リード | r_uid_rx | 1.00 | 同一 |
| Byte Queue Buffer(データ管理) | r_byteq | 1.60 | 同一 |
| Long Queue Buffer(データ管理) | r_longq | 1.60 | 同一 |
| イベントリンクコントローラ(ELC) | r_elc_rx | 1.20 | 更新 |

(3) Middleware/Interface Module

表 3-3 Middleware/Interface Module 一覧

| モジュール名 | FIT モジュール名 | Rev. | 差分情報 |
|--|---------------------|------|------|
| 組み込み用 M3S-T4-Tiny モジュール (注1) | r_t4_rx | 2.06 | 同一 |
| Ethernet ドライバと組み込み用 TCP/IP M3S-T4-Tiny のインタフェース変換モジュール | r_t4_driver_rx | 1.06 | 同一 |
| システムタイマモジュール | r_sys_time_rx | 1.00 | 同一 |
| EEPROM アクセス クロック同期制御モジュール | r_eeprom_spi | 2.34 | 更新 |
| Serial Flash memory アクセス クロック同期制御モジュール | r_flash_spi | 2.34 | 更新 |
| EEPROM アクセス I ² C バスインタフェース(RIIC)モジュール | r_eeprom_riic_rx | 1.40 | 同一 |
| EEPROM アクセス 簡易 I ² C モジュール | r_eeprom_sci_iic_rx | 1.30 | 同一 |
| JPEG デコーダモジュール | r_jpegd_rx | 2.06 | 同一 |
| JPEG エンコーダモジュール | r_jpege_rx | 1.01 | 同一 |
| 音声録音・再生システム(独自 ADPCM コーデック) M3S-S2-Tiny モジュール | r_s2_rx | 3.04 | 同一 |
| オープンソース FAT ファイルシステム M3S-TFAT-Tiny モジュール | r_tfat_rx | 3.03 | 同一 |
| M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール | r_tfat_driver_rx | 1.03 | 同一 |

注1 : 本パッケージには、評価版の「M3S-T4-Tiny (TCP/IP プロトコルスタックライブラリ)」が含まれています。製品版については、以下の URL を参照してください。

<https://www.renesas.com/mw/t4>

4. 使用方法

RX Driver Package は、e² studio の機能「Smart Configurator」または、「FIT Configurator」を用いることで、アプリケーションプログラムを簡単に構築することができます。

CS+を使用する場合、本パッケージに付属している「RXファミリ CS+に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1826JJ)」を参照してください。

本章ではRX Driver Package をダウンロードし、LED を光らせるプログラムの作成手順を説明します。途中で My Renesas へのログインが必要になります。

4.1 FIT モジュールの組み込み

e² studio の機能を使いRX Driver Package をダウンロードし、アプリケーションプログラムを開発する手順を説明します。

Smart Configurator と FIT Configurator でRX Driver Package のダウンロード手順や、アプリケーションプログラムに組み込み手順が異なるため、「4.1.1 Smart Configurator」と「4.1.2 FIT Configurator」に分けて説明します。

4.1.1 Smart Configurator の場合

新規ワークスペースを作成し、RX Driver Package をダウンロードします。

ターゲットMCUに「RX65N」、ターゲットボードに「Renesas Starter Kit+ RX65N-2MB」を使用します。それ以外の環境でダウンロードする場合、使用する環境に合わせて説明を読み替えてください。

(1) 新規ワークスペースとプロジェクトの作成

RX Driver Package をダウンロードするため、ワークスペースとプロジェクトを新規作成します。

(a) 「e² studio」の起動

Windows メニューより「e² studio」を起動してください。

(b) ワークスペースを指定する

「Select a directory as workspace」画面が表示されます。

1. 「ワークスペース(W)」へ任意のワークスペースフォルダを入力してください。
2. 「OK」をクリックしてください。

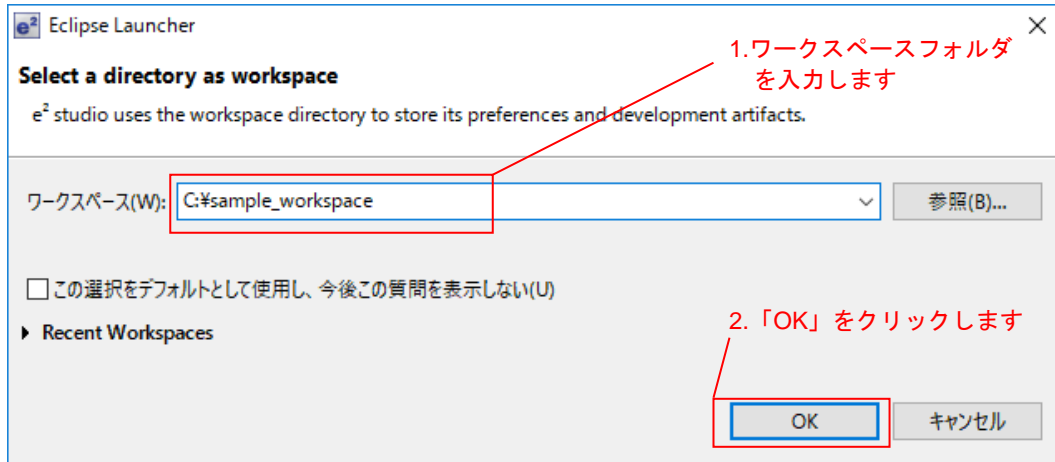


図 4-1 ワークスペースを指定する

(c) ワークベンチを開始する

「Welcome to e²studio」画面が表示されます。

「ようこそ」タブの、画面右上の「ワークベンチ」をクリックしてください。

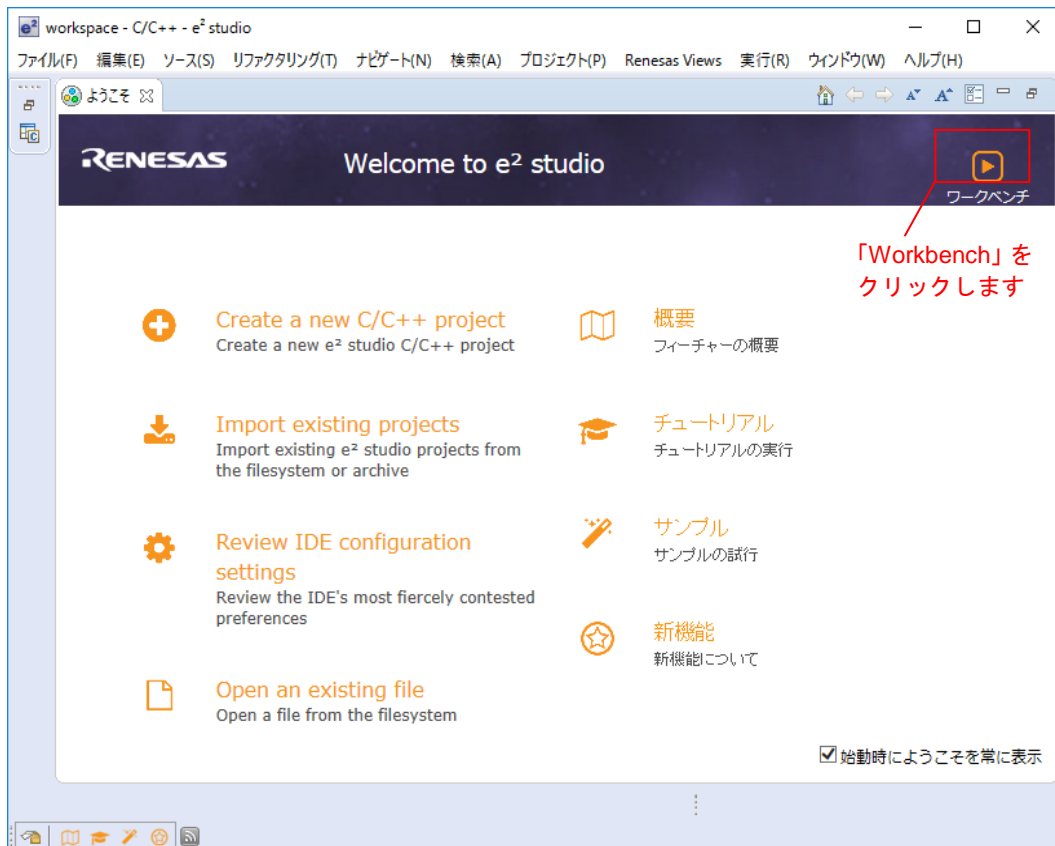


図 4-2 ワークベンチを開始する

(d) C/C++プロジェクトの作成

「ワークベンチ」が起動します。

メニューバーの「ファイル(F)」から「新規(N)」、「C/C++ Project」をクリックします。

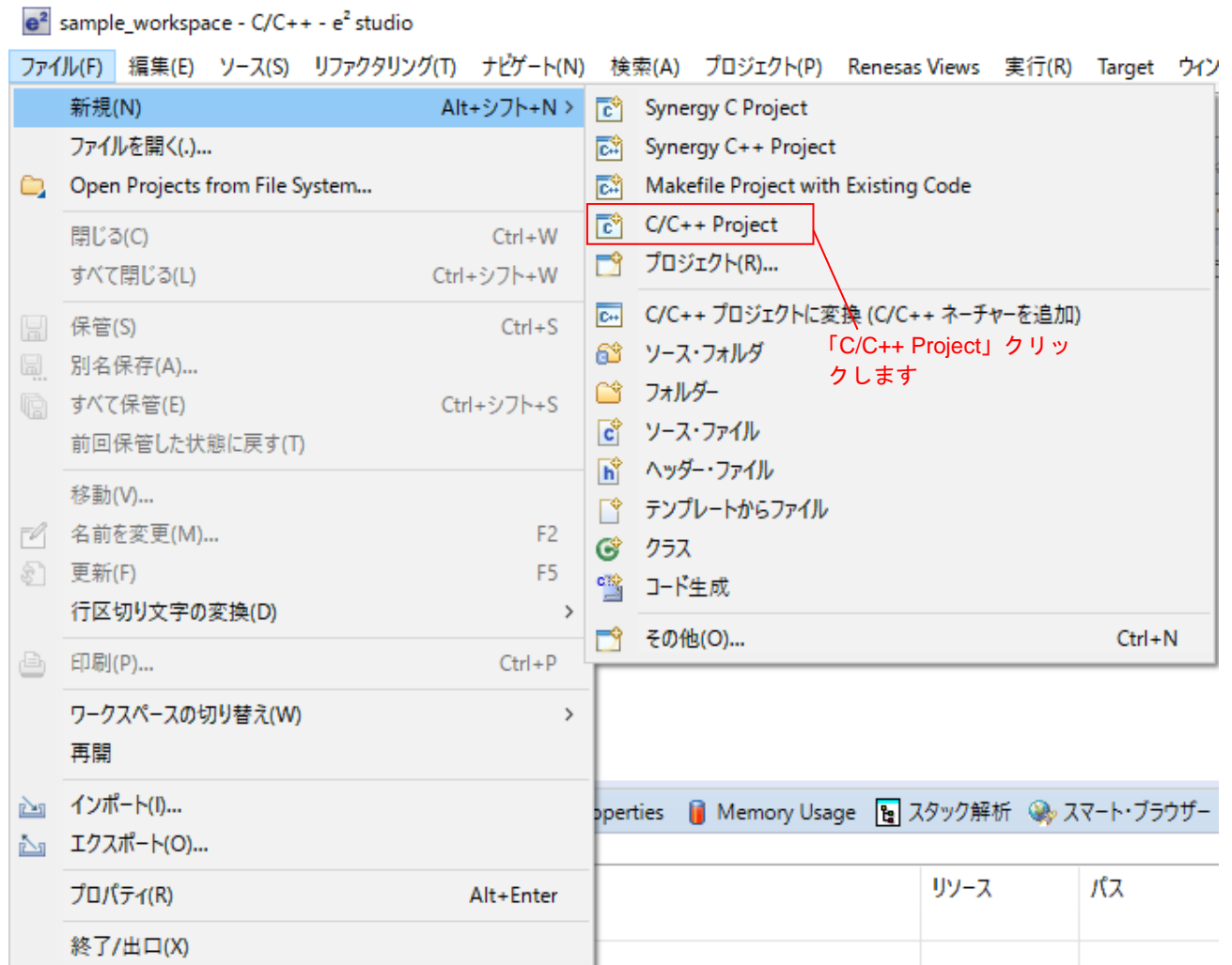


図 4-3 C/C++プロジェクトの作成

(e) プロジェクトのテンプレートの選択

「Templates for New C/C++ Project」画面が表示されます。

- 1.画面左の「Renesas RX」を選択してください。
- 2.画面右の「Renesas CC-RX C/C++ Executable Project」を選択してください。
- 3.「次へ(N)>」をクリックしてください。

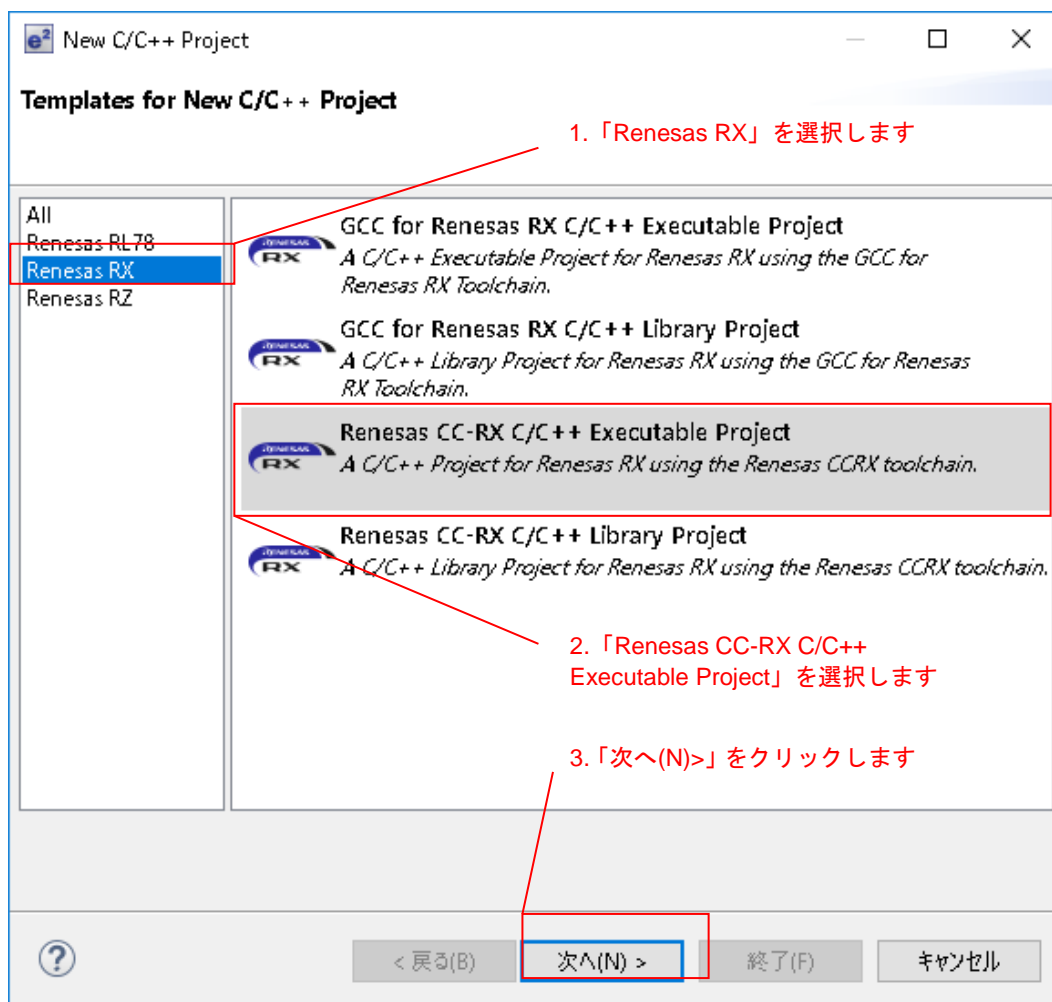


図 4-4 プロジェクトのテンプレートの選択

(f) プロジェクト名の入力

「New Renesas CC-RX Executable Project」画面が表示されます。

1. 「プロジェクト名(P):」を入力してください。
2. 「次へ(N)>」をクリックしてください。

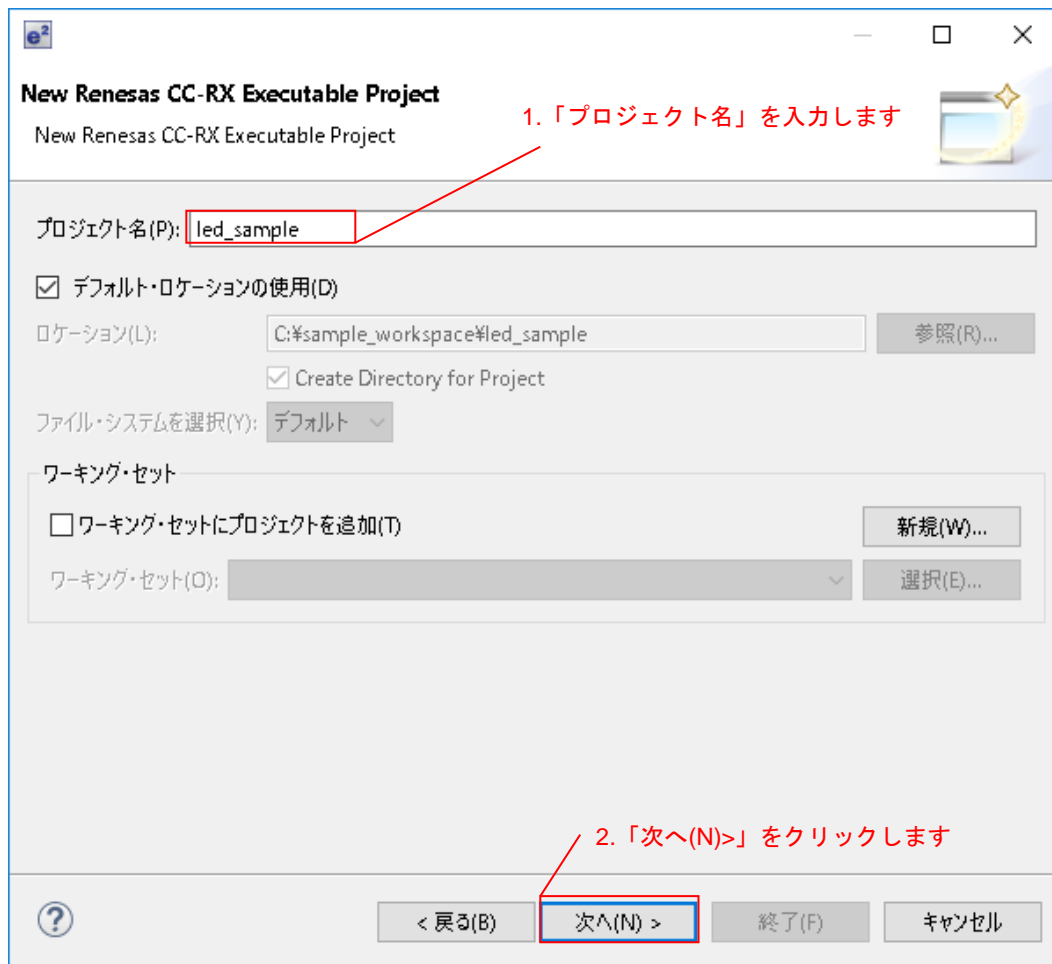


図 4-5 プロジェクト名の入力

(g) ツールチェーンとデバイスの選択

「Select toolchain, device & debug settings」画面が表示されますので、ツールチェーン、デバイスとデバッグの設定を行ってください。

1. 「ツールチェーン:」で「Renesas CCRX」を選択してください（注1）。
2. 「ツールチェーン・バージョン:」で「v2.07.00」を選択してください（注1）。
3. 「ターゲット・デバイス」の「...」ボタンをクリックし、「R5F565NEDxFC」を選択してください（注1）。
4. 「次へ(N)>」をクリックしてください。

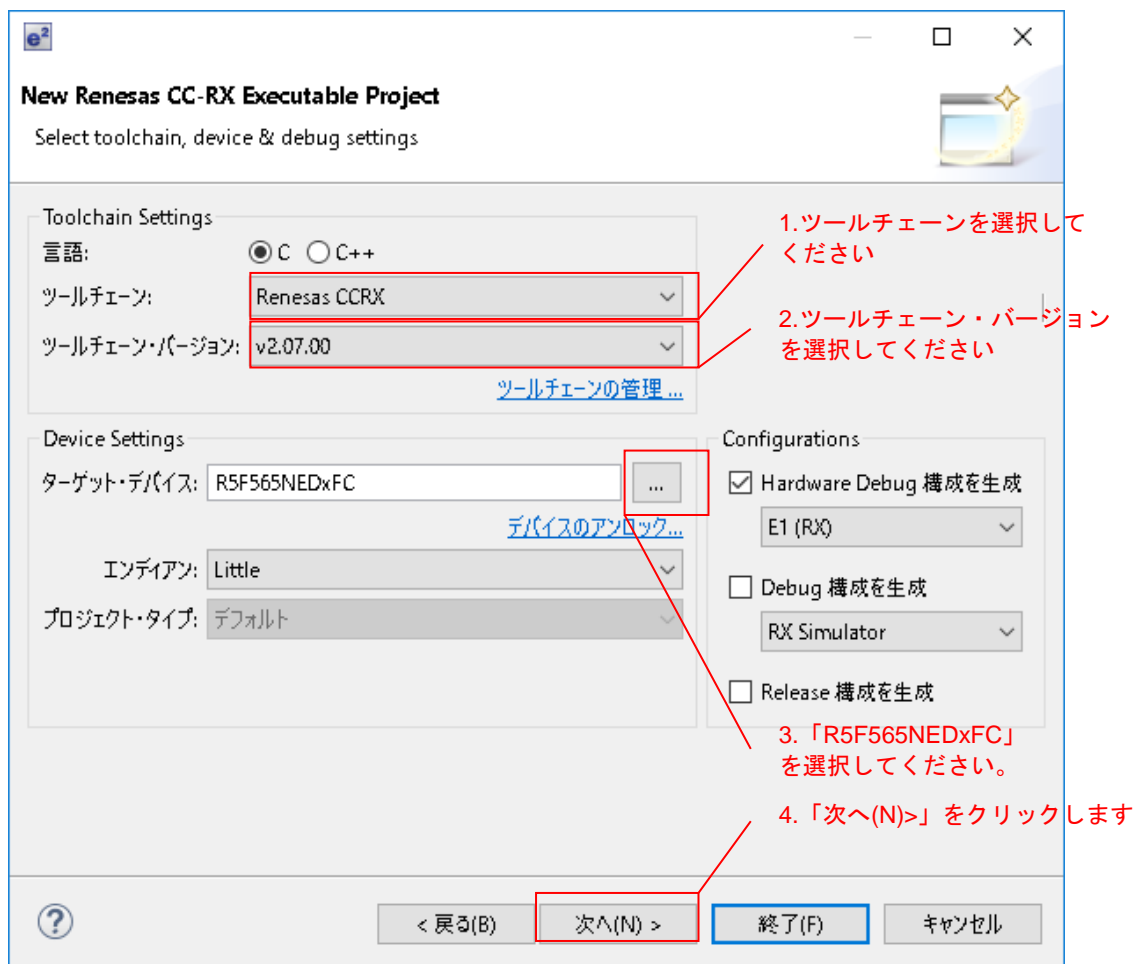


図 4-6 ツールチェーンとデバイスの選択

注1 : お使いの環境に合わせて設定を行ってください。

(h) ワークスペースとプロジェクトの作成完了

「コーディング・アシストツールの選択」画面が表示されます。

1. 「スマート・コンフィグレータを使用する」にチェックを入れてください。
2. 「終了(F)」をクリックしてください。プロジェクトが作成されます。

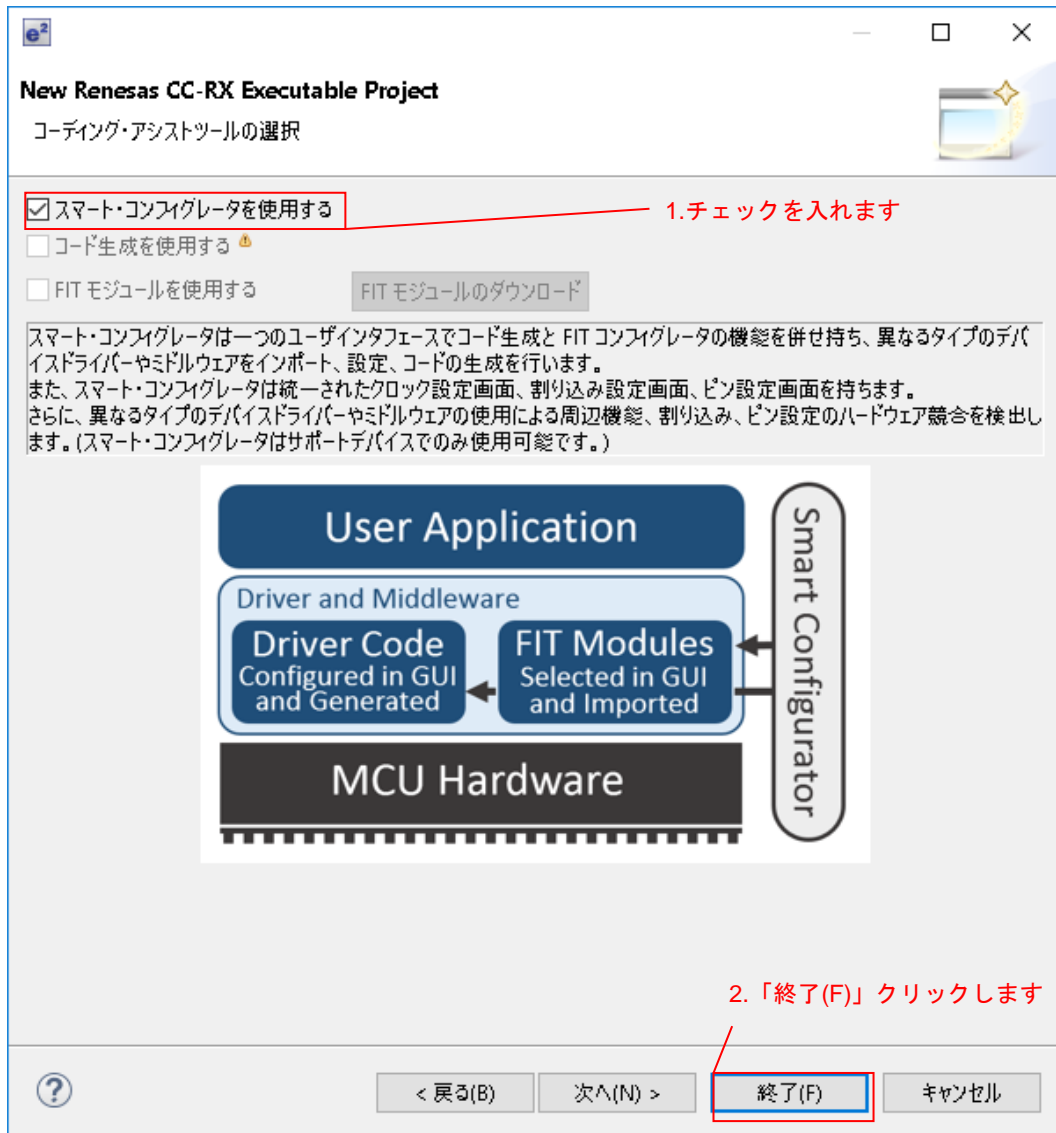


図 4-7 ワークスペースとプロジェクトの作成完了

(2) RX Driver Package のダウンロード

新規作成したワークスペースとプロジェクトで RX Driver Package をダウンロードします。

(a) コンポーネントの追加

スマート・コンフィグレータの初期画面が表示されます。

1. 「led_sample.scfg」 から「コンポーネント」タブを選択してください。
2. 「ソフトウェアコンポーネント設定」画面が表示されますので、「コンポーネントの追加」ボタンをクリックしてください。

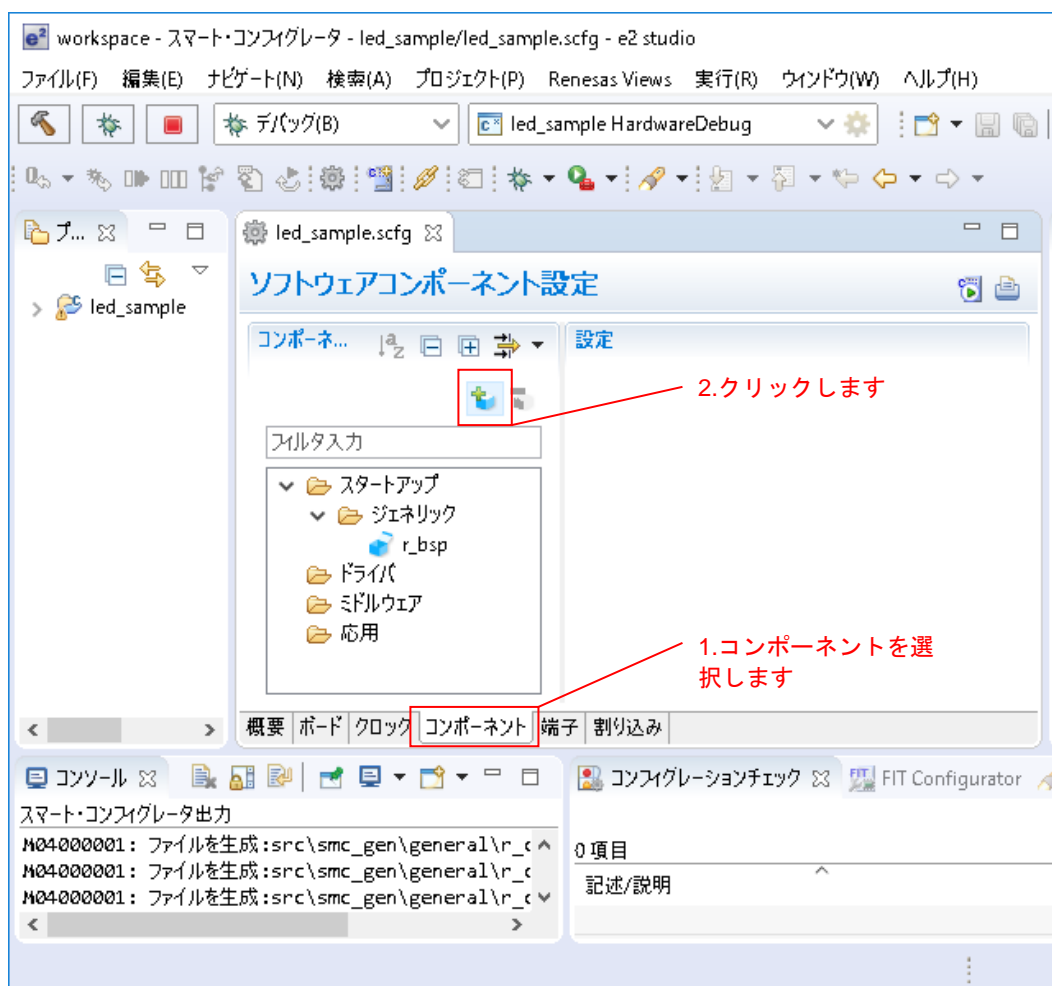


図 4-8 RX DriverPackage のダウンロード

(b) コンポーネントの選択

「ソフトウェアコンポーネントの選択」画面が表示されます。

「他のソフトウェアコンポーネントをダウンロードする」をクリックしてください。

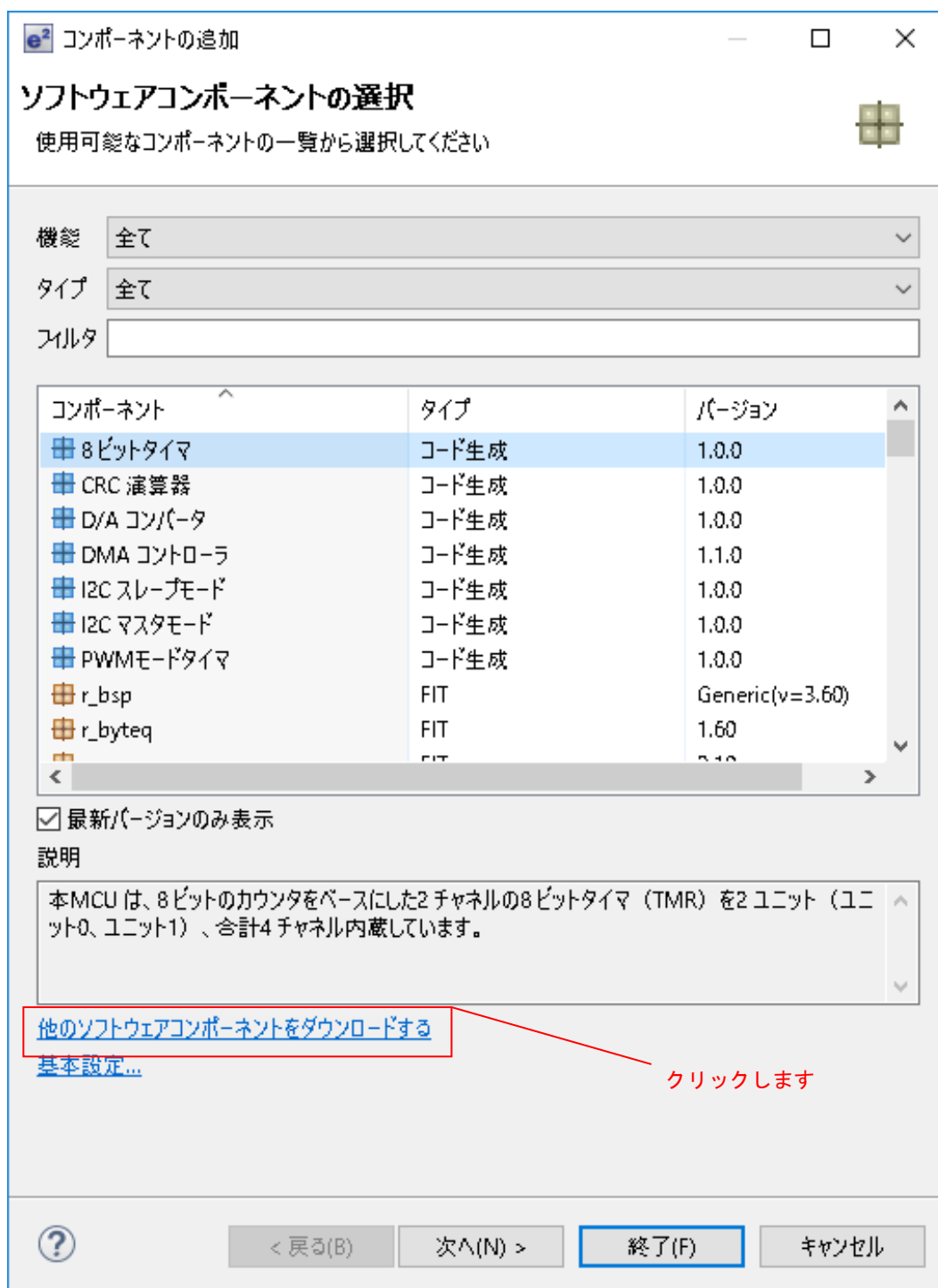


図 4-9 コンポーネントの選択

(c) ダウンロードするモジュールの選択

「FIT モジュールのダウンロード」画面が表示されます。

- 1.ダウンロードする RX Driver Package にチェックを入れてください。
- 2.「FIT モジュール・フォルダー・パス:」を設定してください（注1）。
- 3.「ダウンロード」をクリックしてください。

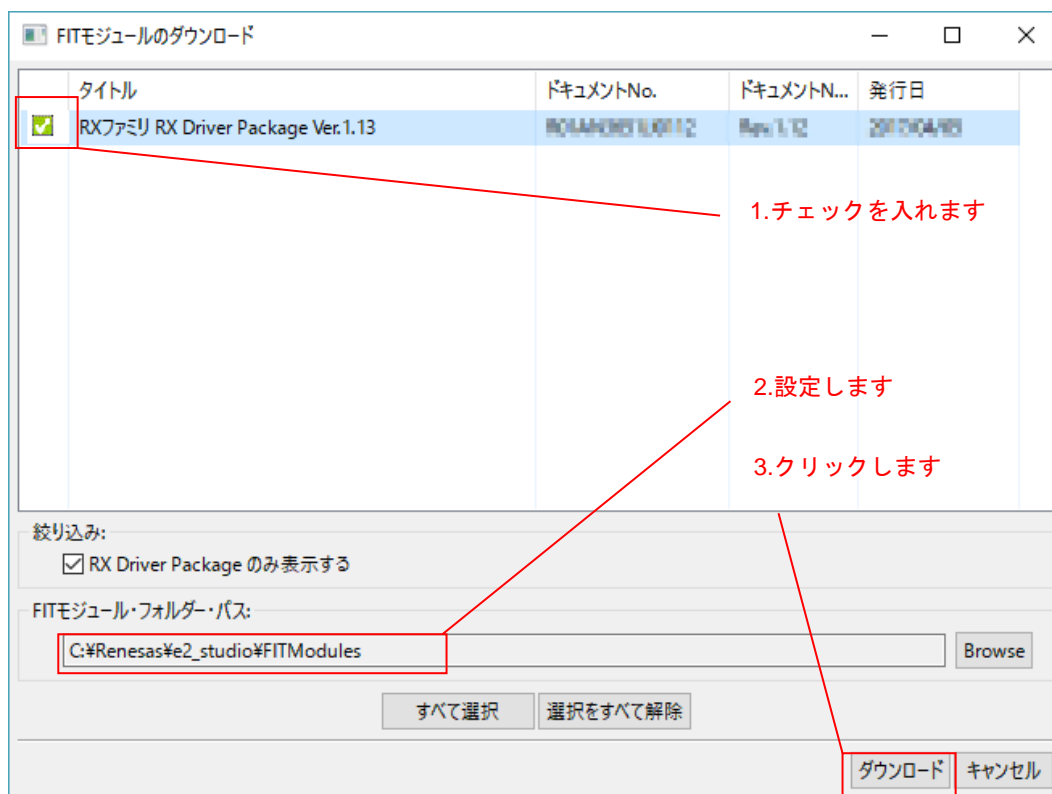


図 4-10 ダウンロードするモジュールの選択

注1 : 「FIT モジュール・フォルダー・パス:」の設定

「FIT モジュール・フォルダー・パス:」で指定したフォルダには、ダウンロードした RX Driver Package が格納されます。任意のフォルダを指定することが可能です。

デフォルト設定では「FITModules」フォルダが指定されます（通常は C:\Renesas\e2_studio\FITModules です）。

(d) My Renesas へのログイン

「My Renesas」画面が表示されます。

1.My Renesas のメール・アドレスとパスワードを入力してください（注1）（注2）。

2. 「OK」をクリックしてください。

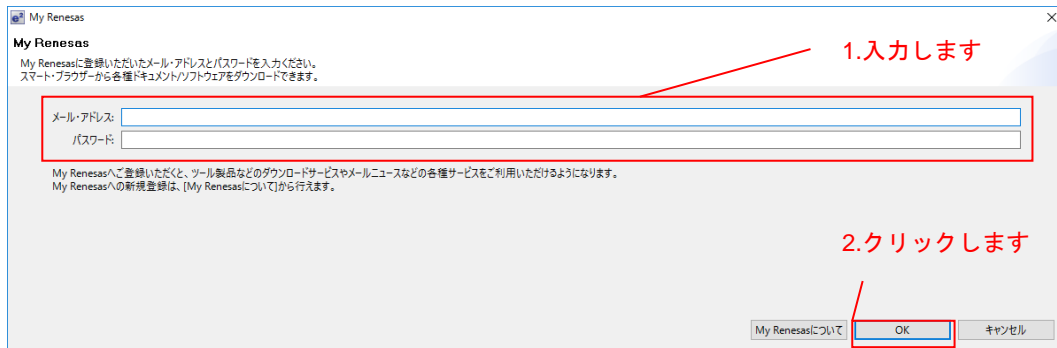


図 4-11 ユーザー認証

注1：Renesas の公式 Web ページより、My Renesas の登録が必要です。詳しくは、「ホームページとサポート窓口」をご覧ください。

注2：入力済みの場合、本画面は表示されません。

(e) ご注意

「免責事項」画面が表示されます。

内容を確認し、問題なければ「同意する」をクリックしてください。

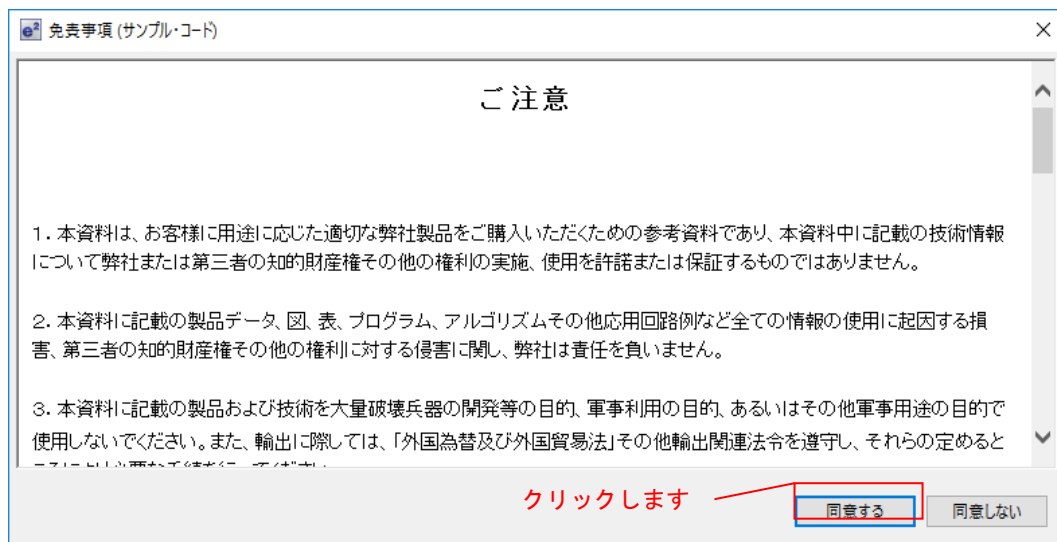


図 4-12 ご注意

(f) ダウンロードの完了

「FIT モジュールのダウンロード」画面が表示されます。

「OK」をクリックしてください。

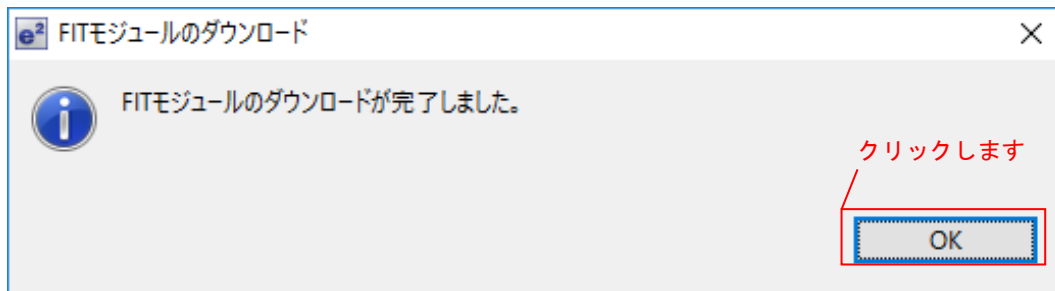


図 4-13 ダウンロードの完了

(3) FIT モジュールをインストールする

作成したプロジェクトに、Smart Configurator を使用し必要なモジュールをインストールします。
ここでは、CMT FIT モジュール (r_cmt_rx) をインストールします。

(a) コンポーネント設定画面を開く

「ソフトウェアコンポーネントの選択」画面が表示されます。

「基本設定」をクリックして、コンポーネント設定画面を開いてください。

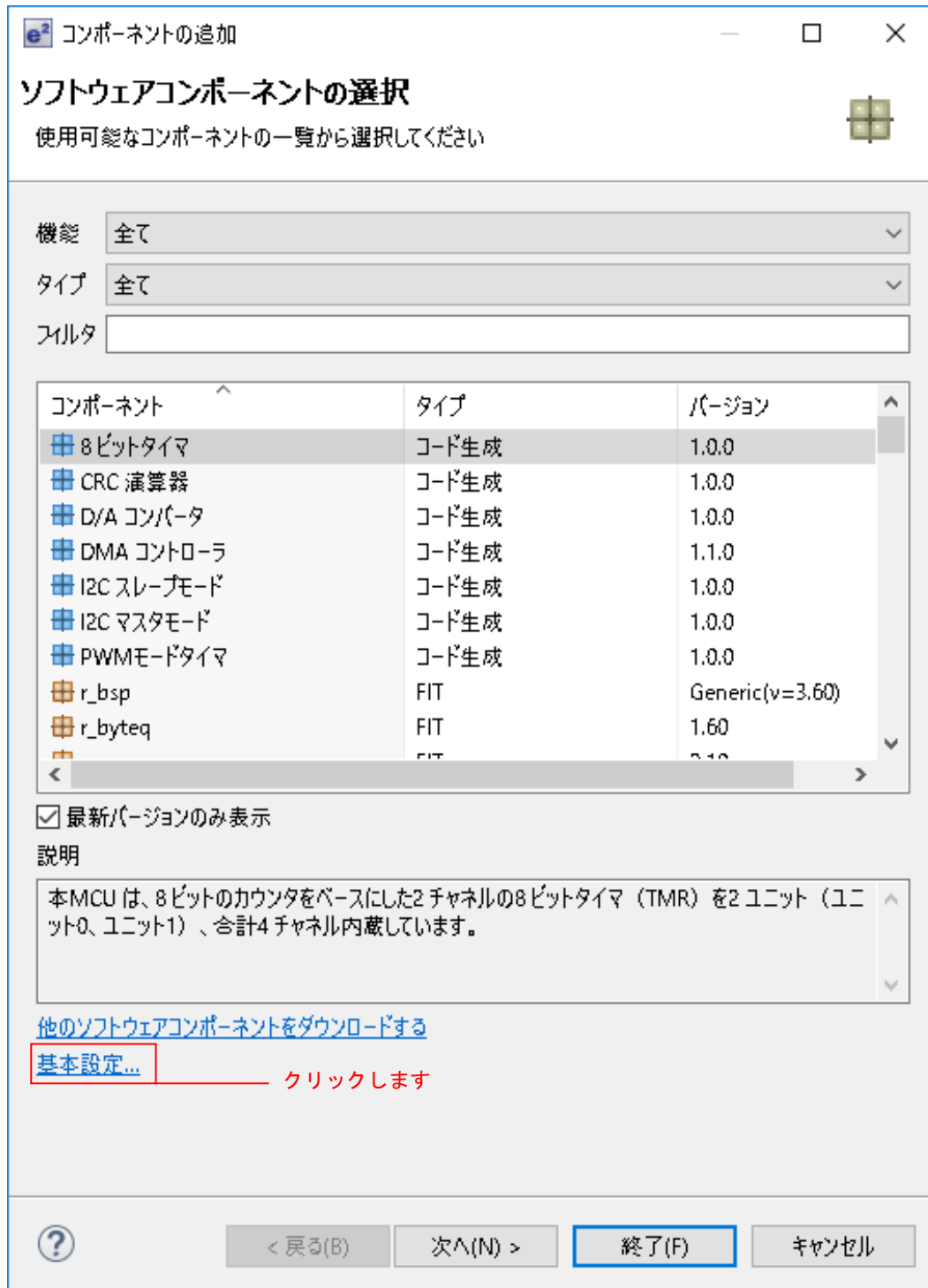


図 4-14 コンポーネント設定画面を開く

(b) すべての FIT モジュールを表示する

「コンポーネントの設定」画面が開きます。

1. 「コンポーネント表示設定」の項目で、「すべての FIT モジュールを表示する」にチェックを入れます。
2. 「OK」をクリックしてください。

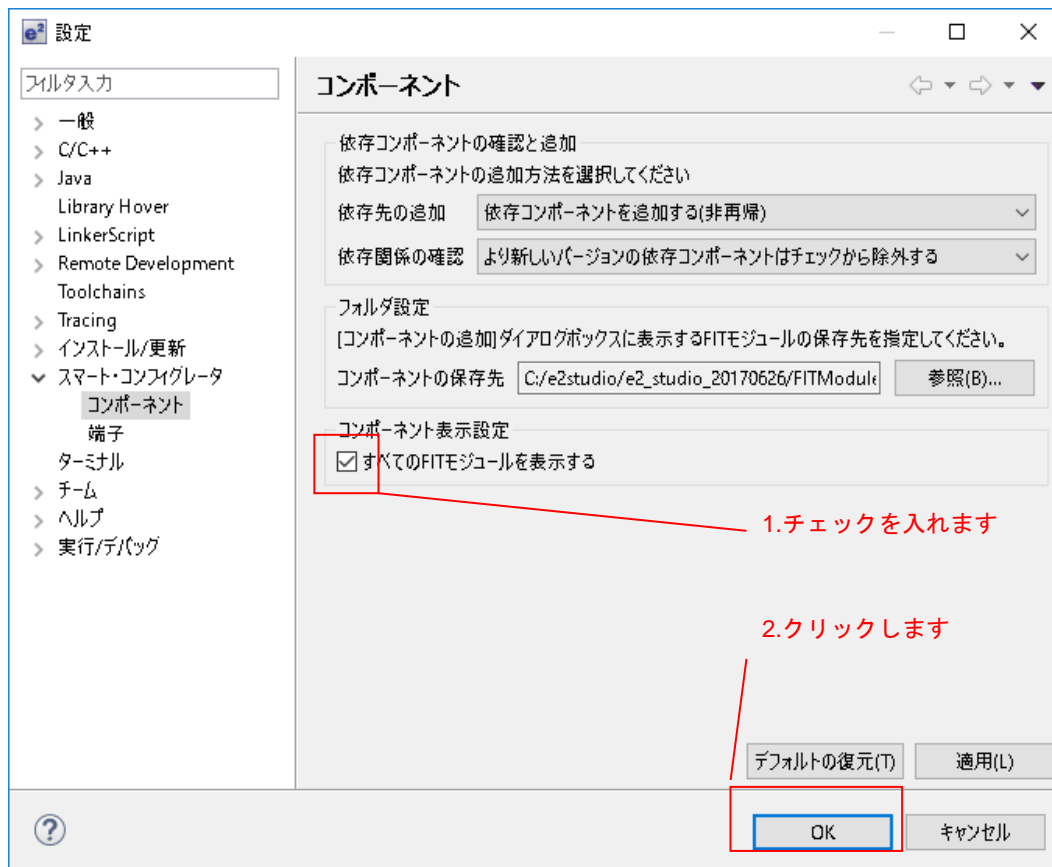


図 4-15 すべての FIT モジュールを表示する

(c) r_cmt_rx を選択する

「ソフトウェアコンポーネントの選択」画面が表示されます。

手順「4.1.1(2)」でダウンロードしたコンポーネントは、タイプが「FIT」と表示されます。

以下の手順で r_cmt_rx を選択してください。

- 1.コンポーネント一覧から「r_cmt_rx」を選択してください（注1）。
- 2.「終了(F)」をクリックしてください。

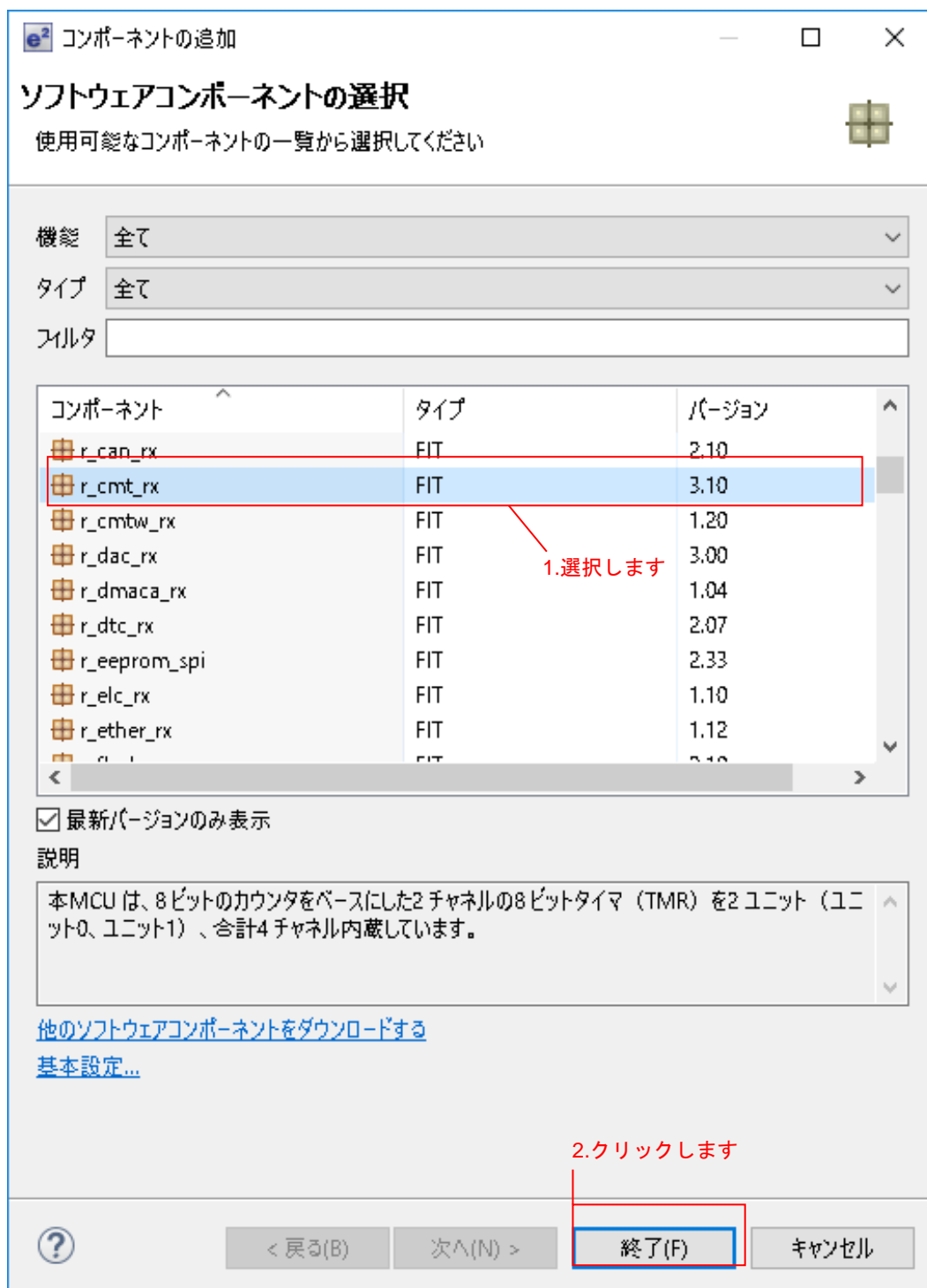


図 4-16 r_cmt_rx をコンポーネントに追加する

注1：ソフトウェアコンポーネント一覧の項目について

●コンポーネント

“DMA コントローラ” や “割り込みコントローラ” など、複数のコンポーネントが一覧表示されま

す。

●タイプ

種別は“コード生成”と“FIT”の2種類です。コンポーネントには次の3パターンが存在します。

・“コード生成”タイプだけのコンポーネント。

・“FIT”タイプだけのコンポーネント。

・“コード生成”と“FIT”タイプ両方とも用意しているコンポーネント。

コンポーネントを選択する時は目的のタイプを選びますよう、ご確認ください。

●バージョン

コンポーネントのバージョンが一覧表示されます。目的のバージョンを選びますよう、ご確認ください。

(d) コードの生成

「ソフトウェアコンポーネント設定」画面に戻ります。

- 1.コンポーネントに「r_cmt_rx」が追加されたことを確認してください。
- 2.「コードの生成」をクリックしてください。コードが自動生成されます。

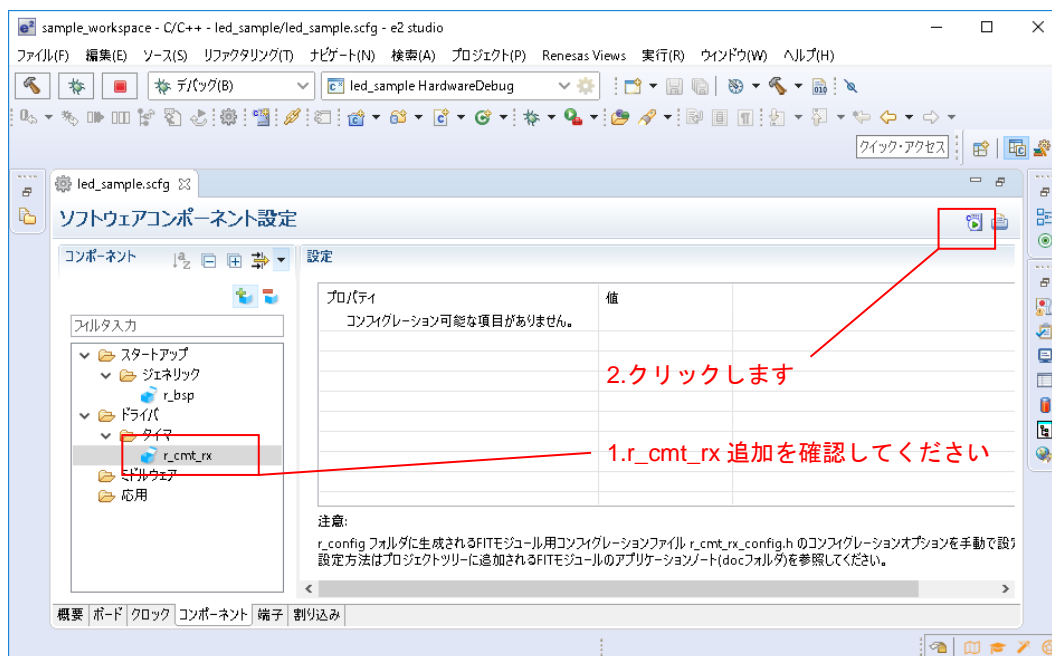


図 4-17 コードの生成

FIT モジュールの組み込みに、本章の Smart Configurator を使用した場合、「4.1.2 FIT Configuratorの場合」の説明は参照不要です。

「4.2 LED点灯プログラムを作成する」にお進みください。

4.1.2 FIT Configurator の場合

新規ワークスペースを作成し、RX Driver Package をダウンロードします。

ターゲット MCU に「RX111」、ターゲットボードに「Renesas Starter Kit+ RX111」を使用します。それ以外の環境でダウンロードする場合、使用する環境に合わせて説明を読み替えてください。

(1) 新規ワークスペースとプロジェクトを作成する

RX Driver Package をダウンロードするため、ワークスペースとプロジェクトを新規作成します。

(a) e² studio の起動

Windows メニューより「e² studio」を起動してください。

(b) ワークスペースを指定する

「Select a directory as workspace」画面が表示されます。

1. 「ワークスペース(W)」へ任意のワークスペースフォルダを入力してください。
2. 「OK」をクリックしてください。

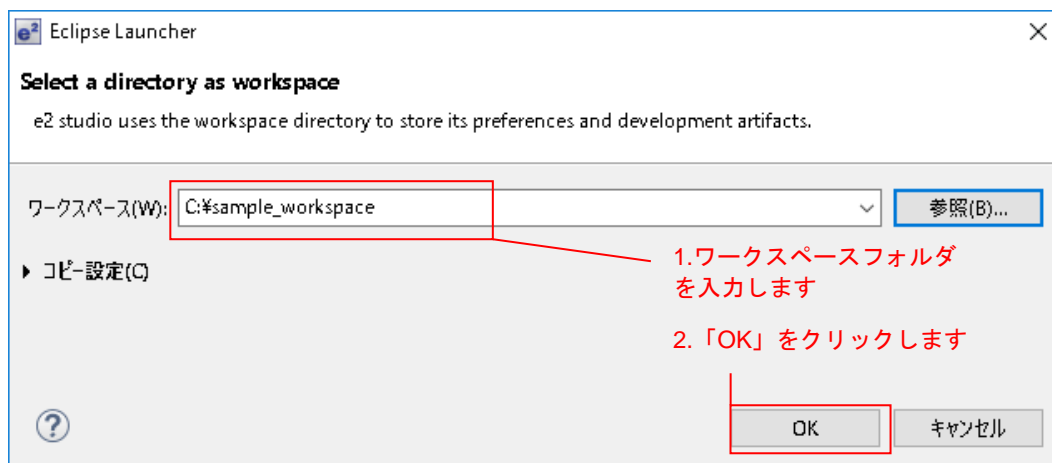


図 4-18 ワークスペースを指定する

(c) ワークベンチを開始する

「Welcome to e²studio」画面が表示されます。

「ようこそ」タブの、画面右上の「ワークベンチ」をクリックしてください。

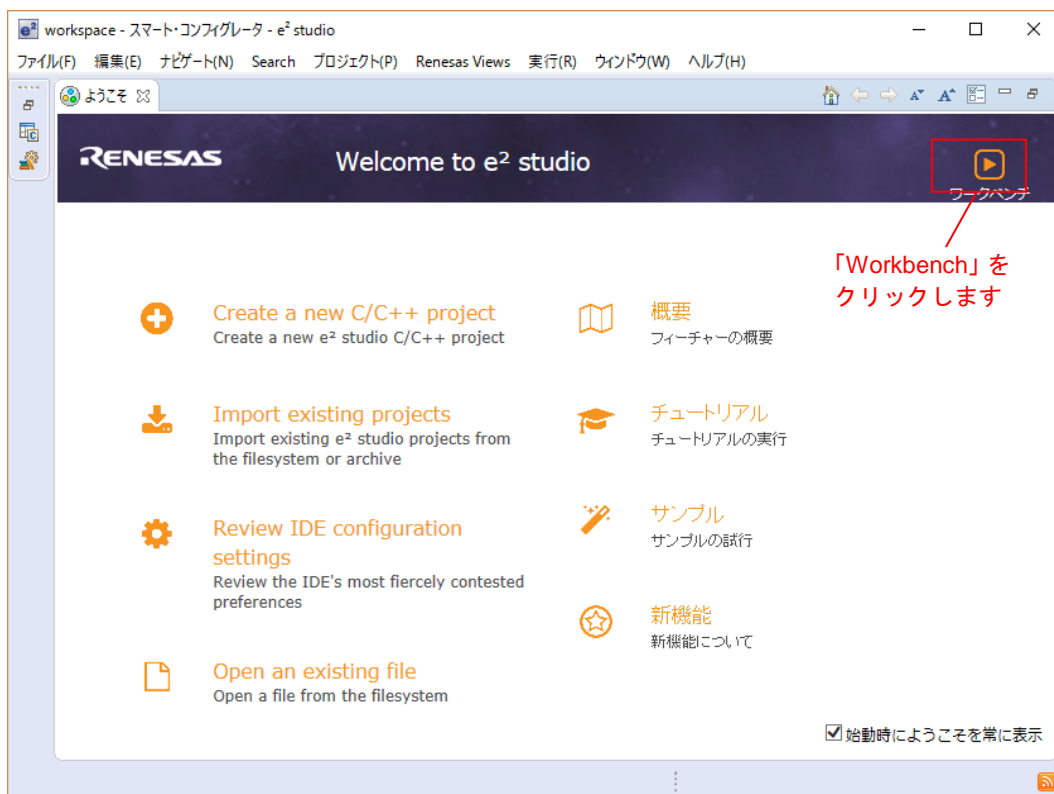


図 4-19 ワークベンチを開始する

(d) C/C++プロジェクトの作成

「ワークベンチ」が起動します。

メニューバーの「ファイル(F)」から「新規(N)」、「C/C++ Project」をクリックしてください。

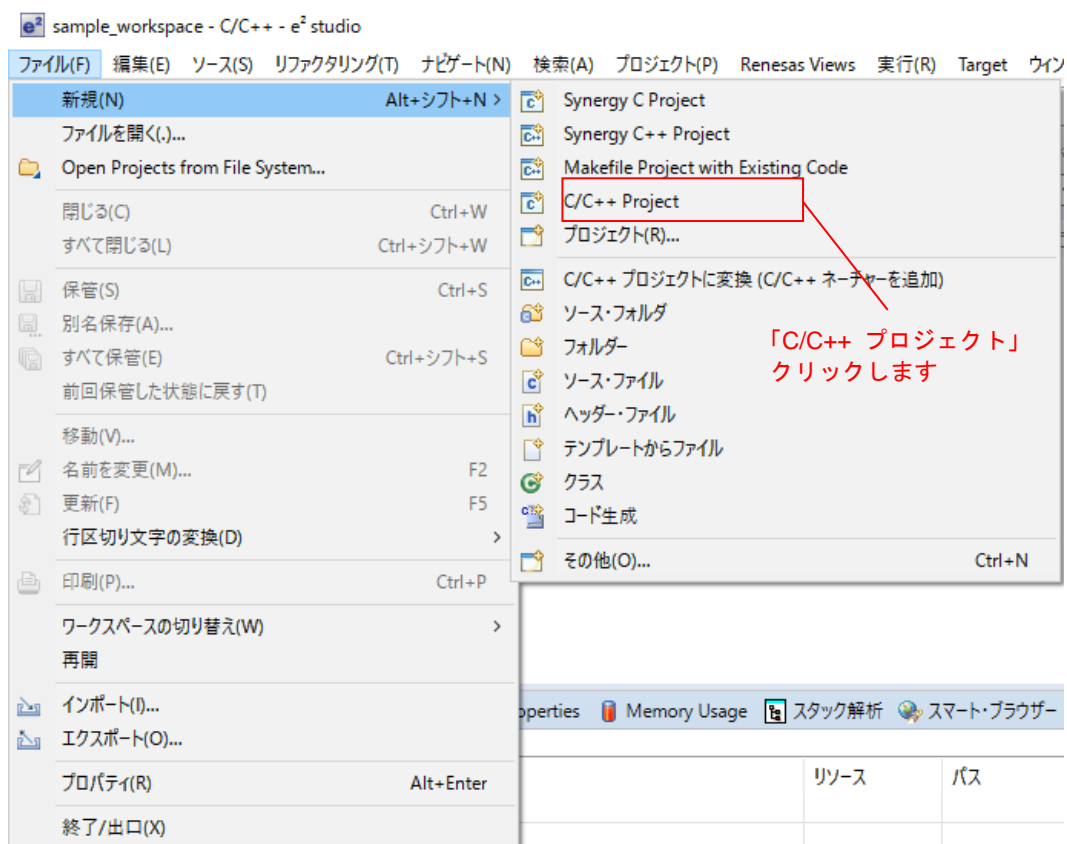


図 4-20 C/C++プロジェクトの作成

(e) プロジェクトのテンプレートの選択

「Templates for New C/C++ Project」画面が表示されます。

- 1.画面左の「Renesas RX」を選択してください。
- 2.画面右の「Renesas CC-RX C/C++ Executable Project」を選択してください。
- 3.「次へ(N)>」をクリックしてください。

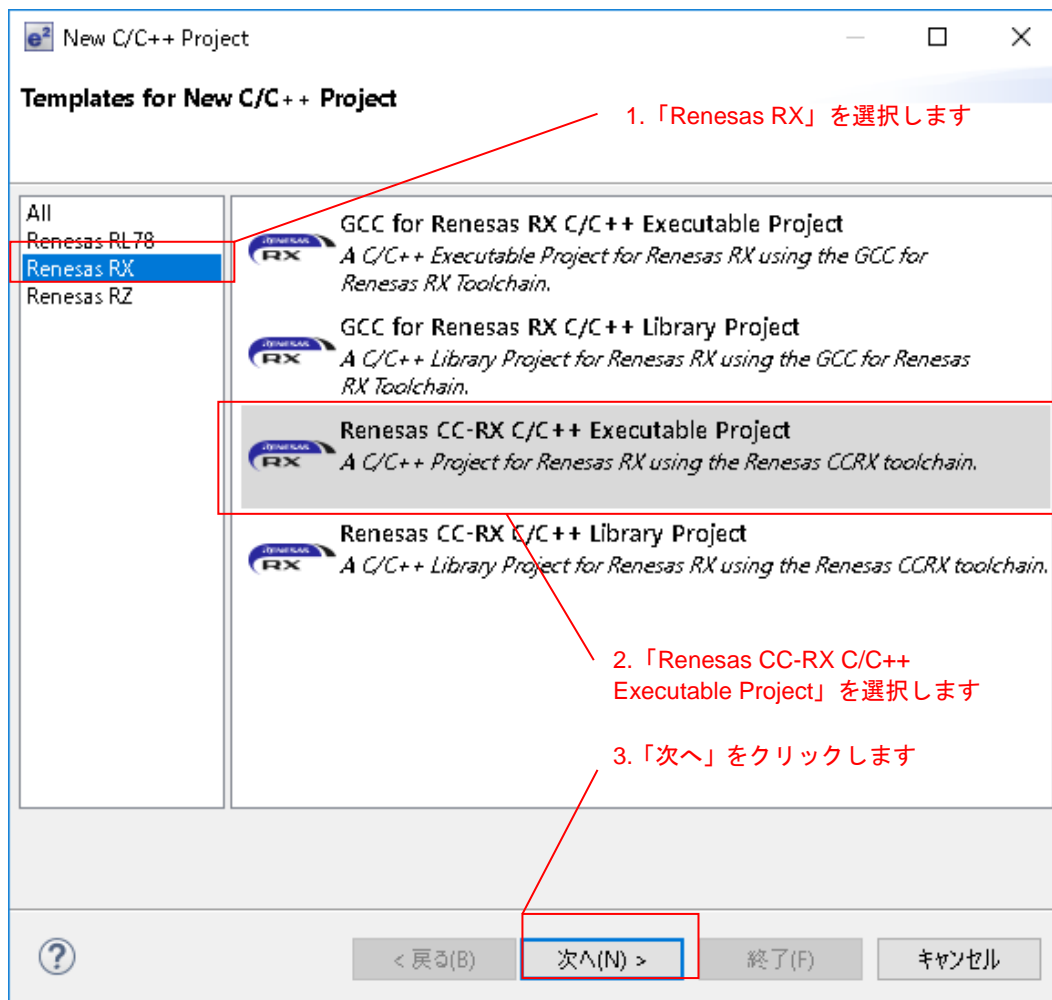


図 4-21 プロジェクトのテンプレートの選択

(f) プロジェクト名の入力

「New Renesas CC-RX Executable Project」画面が表示されます。

1. 「プロジェクト名(P):」を入力してください。
2. 「次へ(N)>」をクリックしてください。

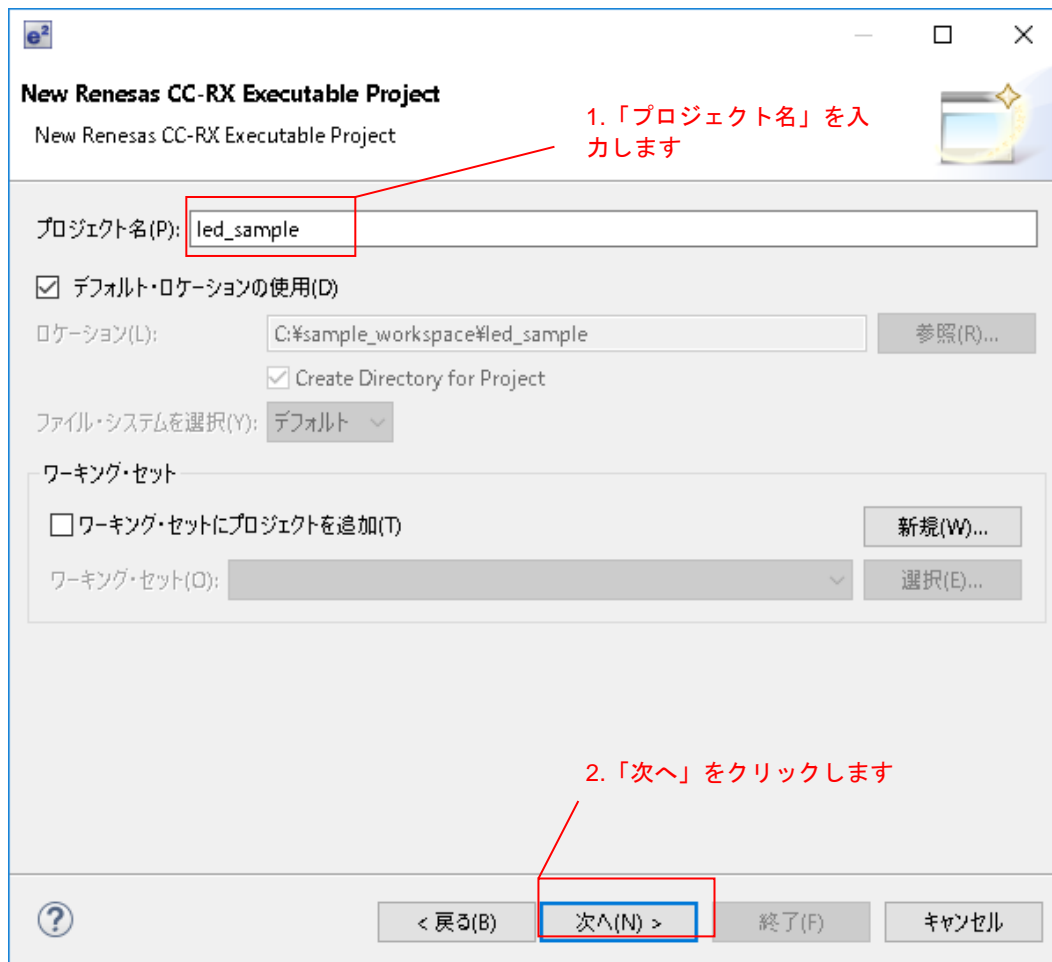


図 4-22 プロジェクト名の入力

(g) ツールチェーンとデバイスの選択

「Select toolchain, device & debug settings」画面が表示されますので、ツールチェーン、デバイスとデバッグの設定を行ってください。

1. 「ツールチェーン:」で「Renesas CCRX」を選択してください（注1）。
2. 「ツールチェーン・バージョン:」で「v2.07.00」を選択してください（注1）。
3. 「ターゲット・デバイス」の「...」ボタンをクリックし、「R5F51115AxFM」を選択してください（注1）。
4. 「次へ(N)>」をクリックしてください。

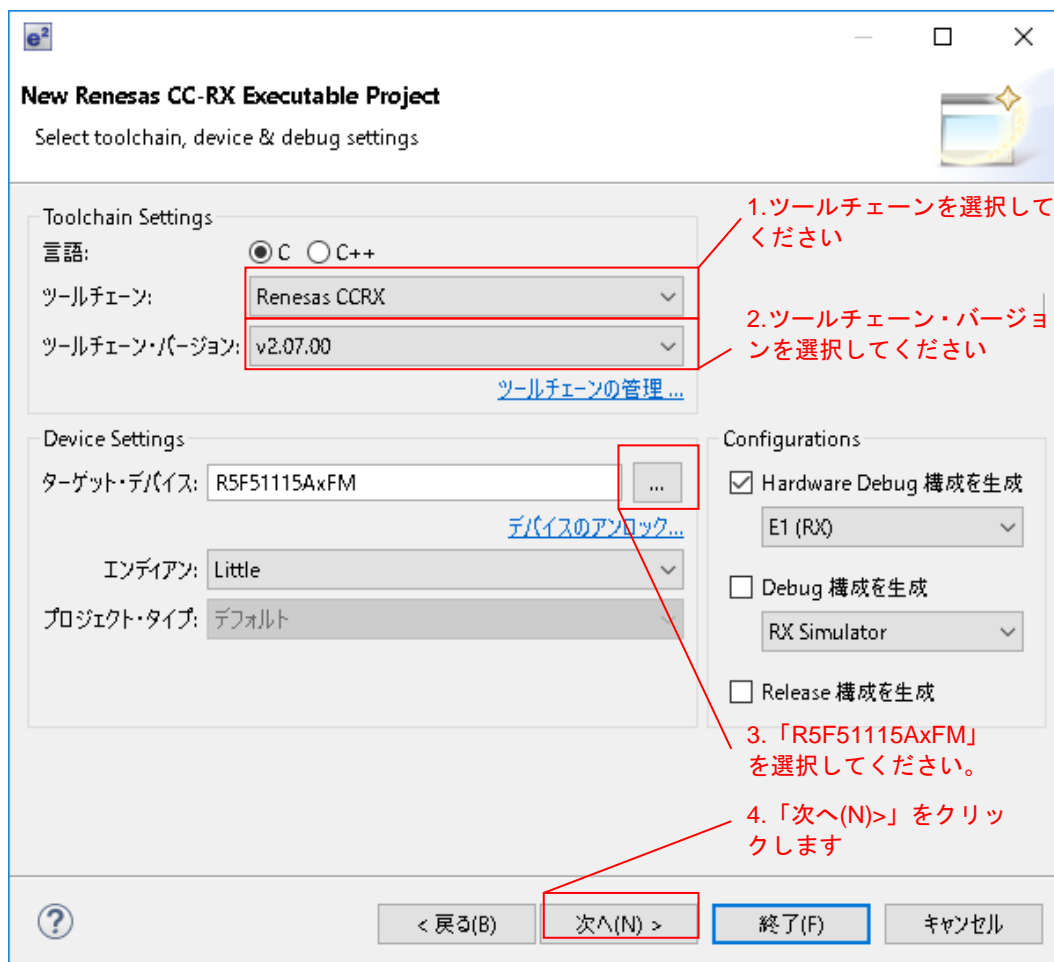


図 4-23 ツールチェーンとデバイスの選択

注1 : お使いの環境に合わせて設定を行ってください。

(h) コーディング・アシストツールの選択

「コーディング・アシストツールの選択」画面が表示されます。

1. 「FIT モジュールを使用する」にチェックを入れてください。
2. 「FIT モジュールのダウンロード」をクリックしてください。「FIT モジュールのダウンロード画面」が表示されます。

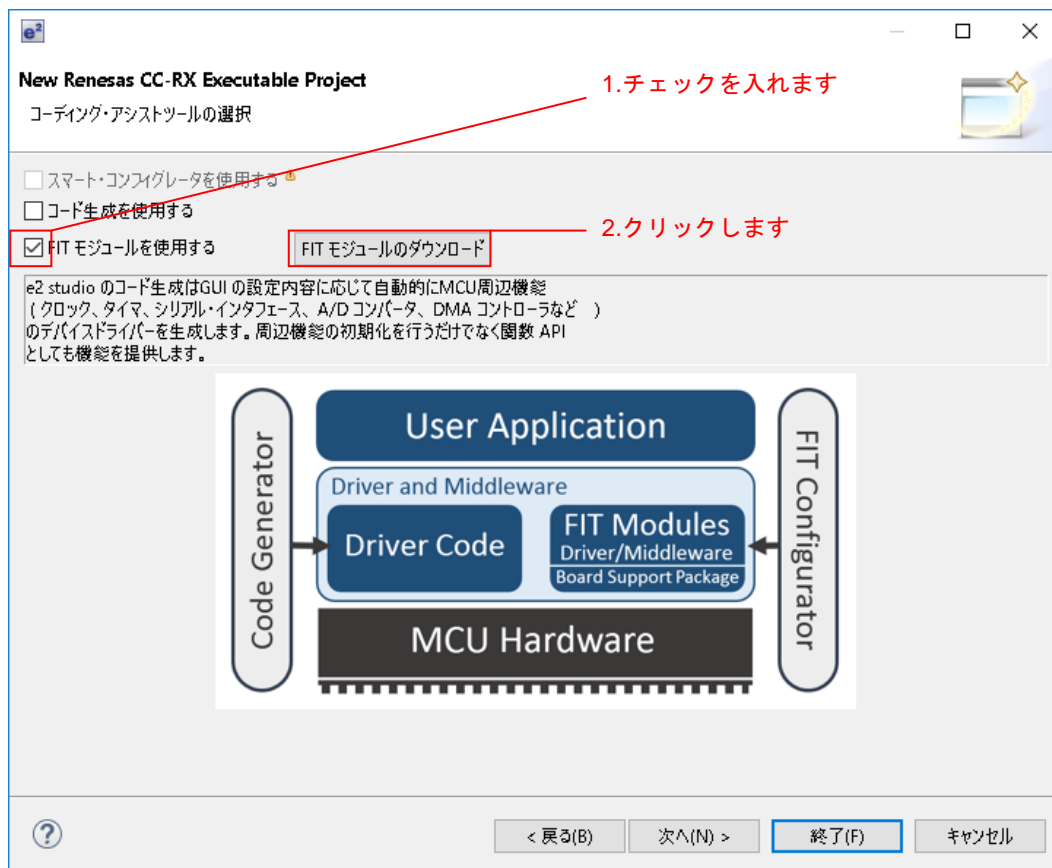


図 4-24 コーディング・アシストツールの選択

(2) RX Driver Package のダウンロード

新規作成中のワークスペースとプロジェクトで RX Driver Package をダウンロードする。

(a) ダウンロードするモジュールの選択

「FIT モジュールのダウンロード」画面が表示されます。

1. 「絞り込み:」の「RX Driver Package のみ表示する」にチェックを入れてください。
2. ダウンロードする RX Driver Package にチェックを入れてください。
3. 「FIT モジュール・フォルダー・パス:」を設定してください（注1）。
4. 「ダウンロード」をクリックしてください。

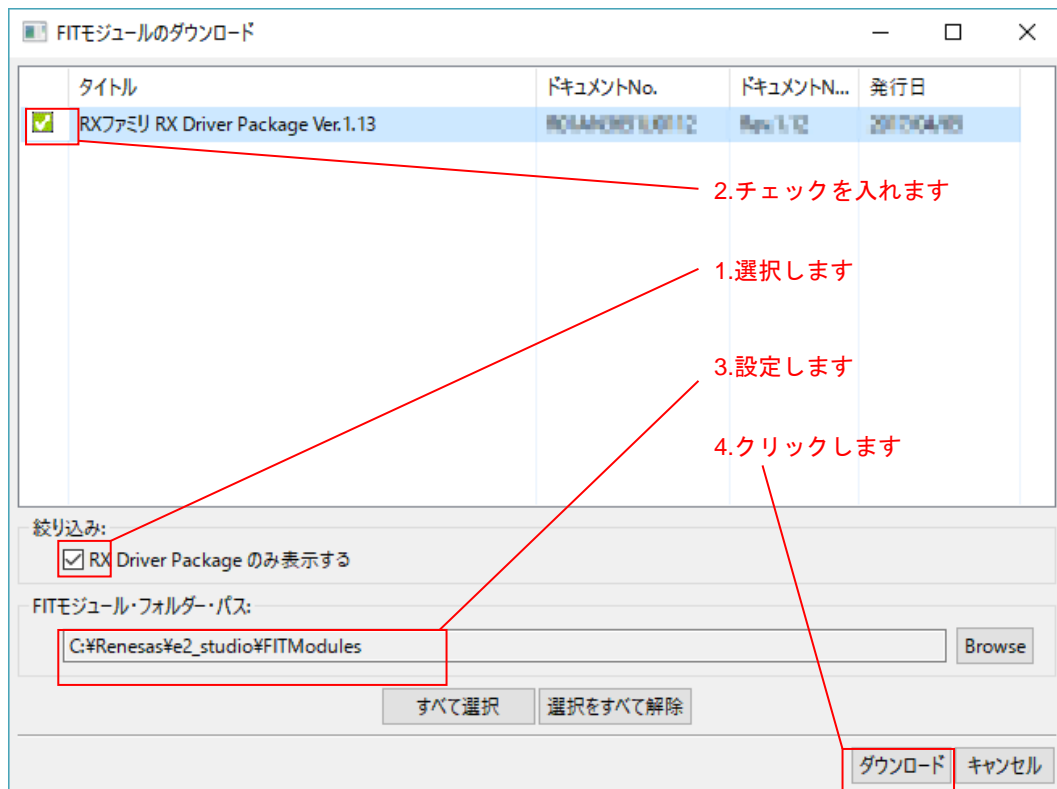


図 4-25 ダウンロードするモジュールの選択

注1: 「FIT モジュール・フォルダー・パス:」の設定

「FITモジュール・フォルダー・パス:」で指定したフォルダには、ダウンロードしたRX Driver Package が格納されます。任意のフォルダを指定することも可能です。

デフォルト設定では「FITModules」フォルダが指定されます（通常は C:\Renesas\le2_studio\FITModules です）。

「FITModules」フォルダは「4.1.2(1)(h)」の説明にある「FIT モジュールのダウンロード」をクリックすると自動で生成されます。

(b) My Renesas へのログイン

「My Renesas」画面が表示されます。

1. My Renesas のメール・アドレスとパスワードを入力してください（注1）（注2）。
2. 「OK」をクリックしてください。

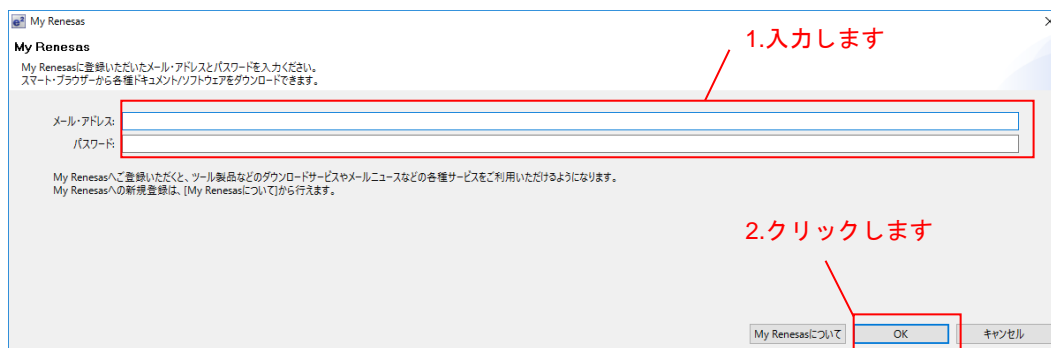


図 4-26 ユーザー認証

注1：Renesas の公式 Web ページより、My Renesas の登録が必要です。詳しくは、「ホームページとサポート窓口」をご覧ください。

注2：入力済みの場合、本画面は表示されません。

(c) ご注意

「免責事項」画面が表示されます。

内容を確認し、問題なければ「同意する」をクリックしてください。

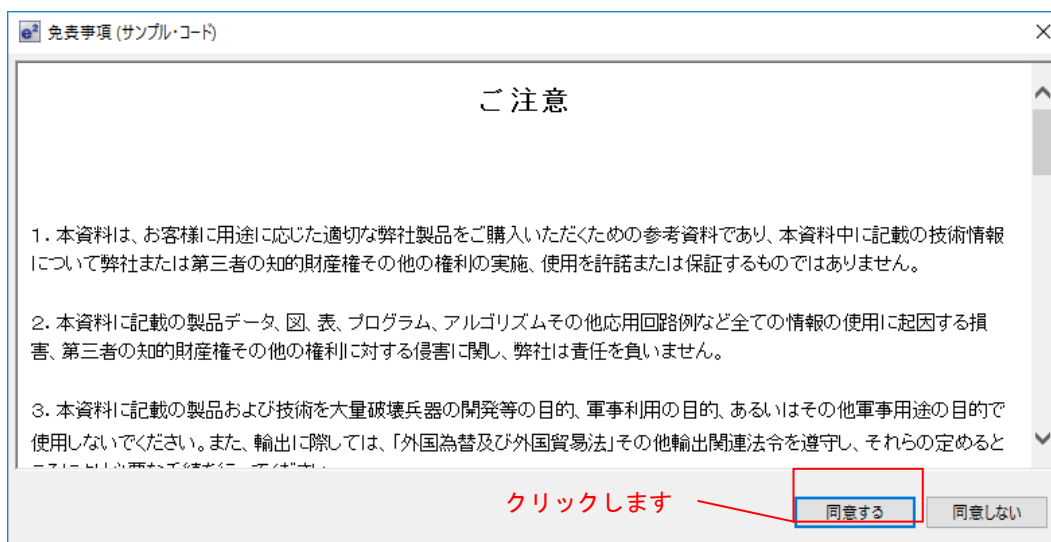


図 4-27 ご注意

(d) ダウンロードの完了

「FIT モジュールのダウンロード」画面が表示されます。

「OK」をクリックしてください。

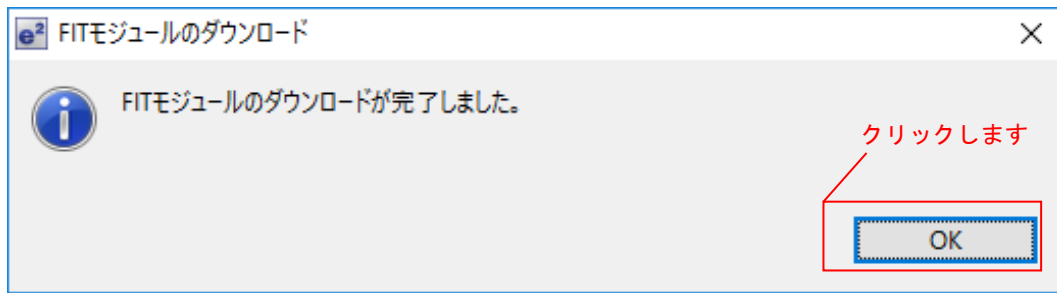


図 4-28 ダウンロードの完了

(e) ワークスペースとプロジェクトの作成の完了

「コーディング・アシストツールの選択」画面が表示されます。

1. 「FIT モジュールを使用する」にチェックが入っていることを確認してください。
2. 「終了(F)」をクリックしてください。プロジェクトが作成されます。

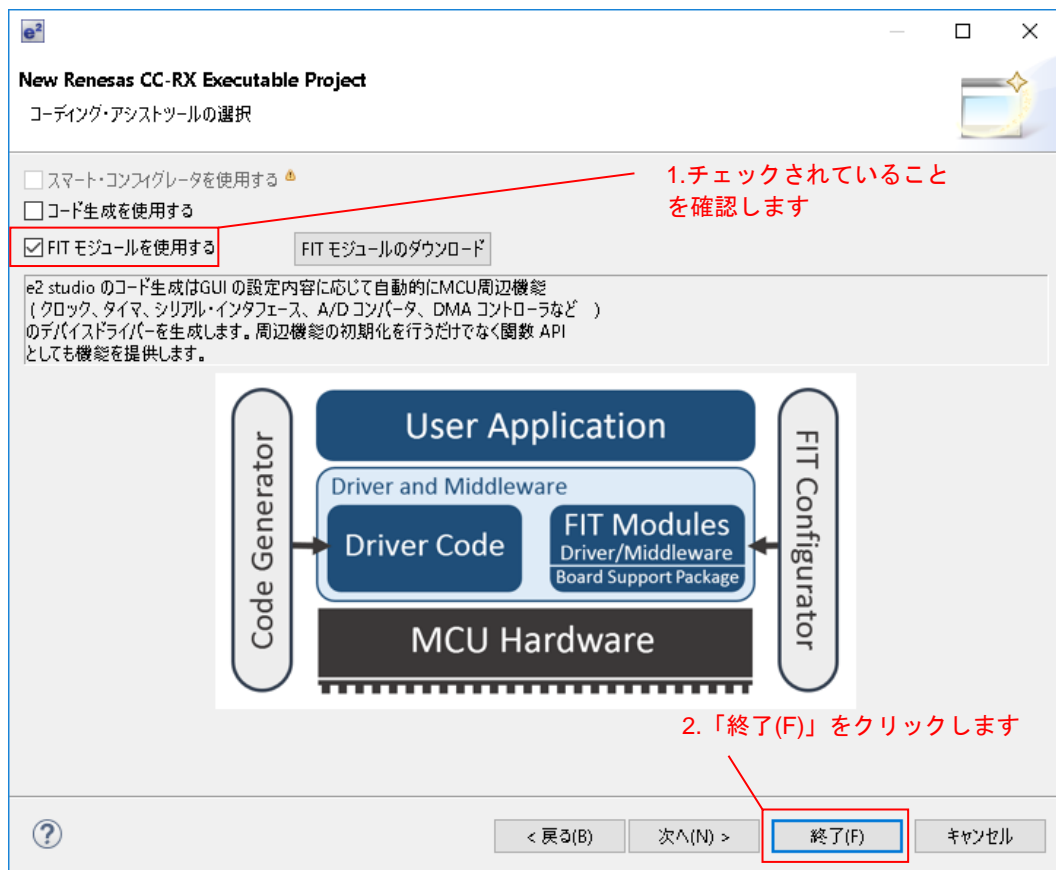


図 4-29 ワークスペースとプロジェクトの作成の完了

(3) FIT モジュールをインストールする

作成したプロジェクトに、FIT Configurator を使用し必要なモジュールをインストールします。

ここでは、CMT FIT モジュール (r_cmt_rx) をインストールします。

(a) FIT Configurator を開く

e²studio のメニュー「Renesas Views」から「e2 ソリューション・ツールキット」の「FIT Configurator」をクリックしてください。

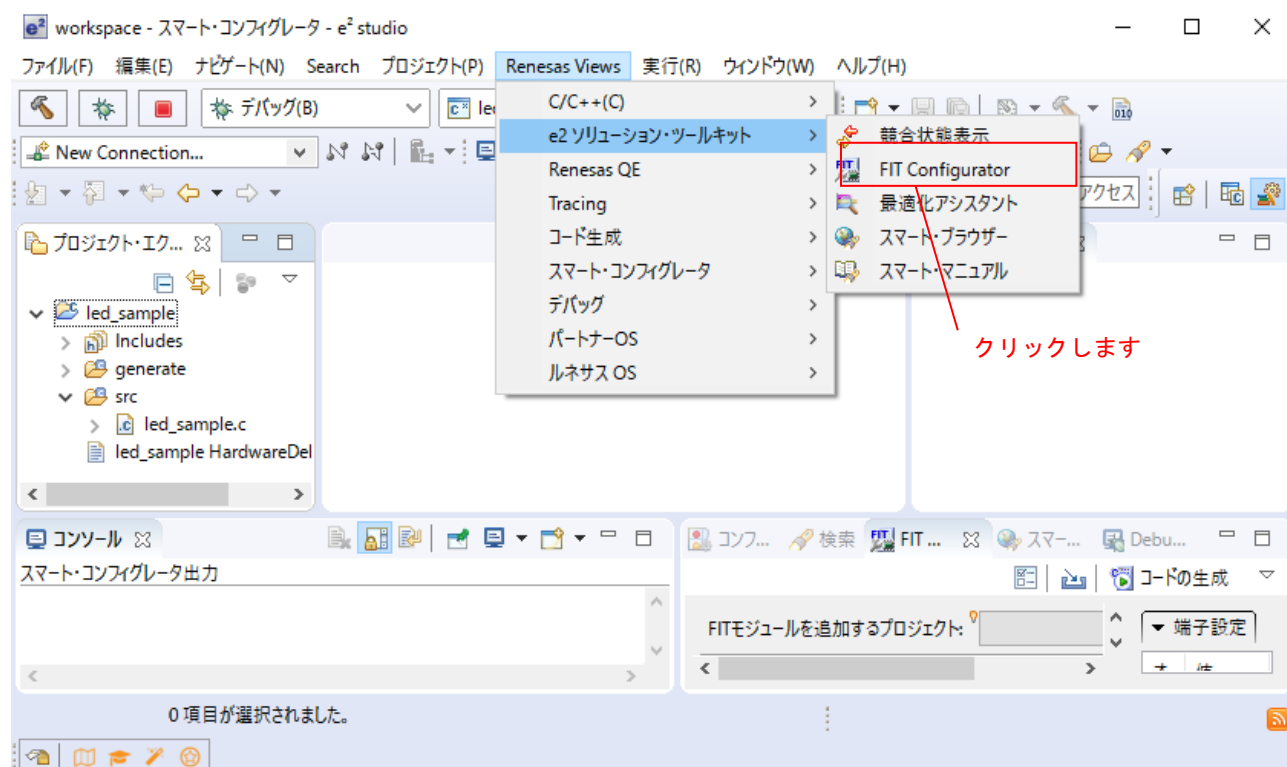


図 4-30 FIT Configurator を開く

(b) モジュールの追加

ワークスペース画面右下に「FIT Configurator」が表示されます。

1. 「FIT Configurator」タブを開きます。
2. 「FIT モジュールを追加するプロジェクト:」で作成したプロジェクト「led_sample」を選択します。
3. 「ターゲットボード」で「RSKRX111」を選択します。
4. 「使用可能なモジュール」で「r_cmt_rx」を選択します。
5. 「モジュールの追加>>」をクリックします。

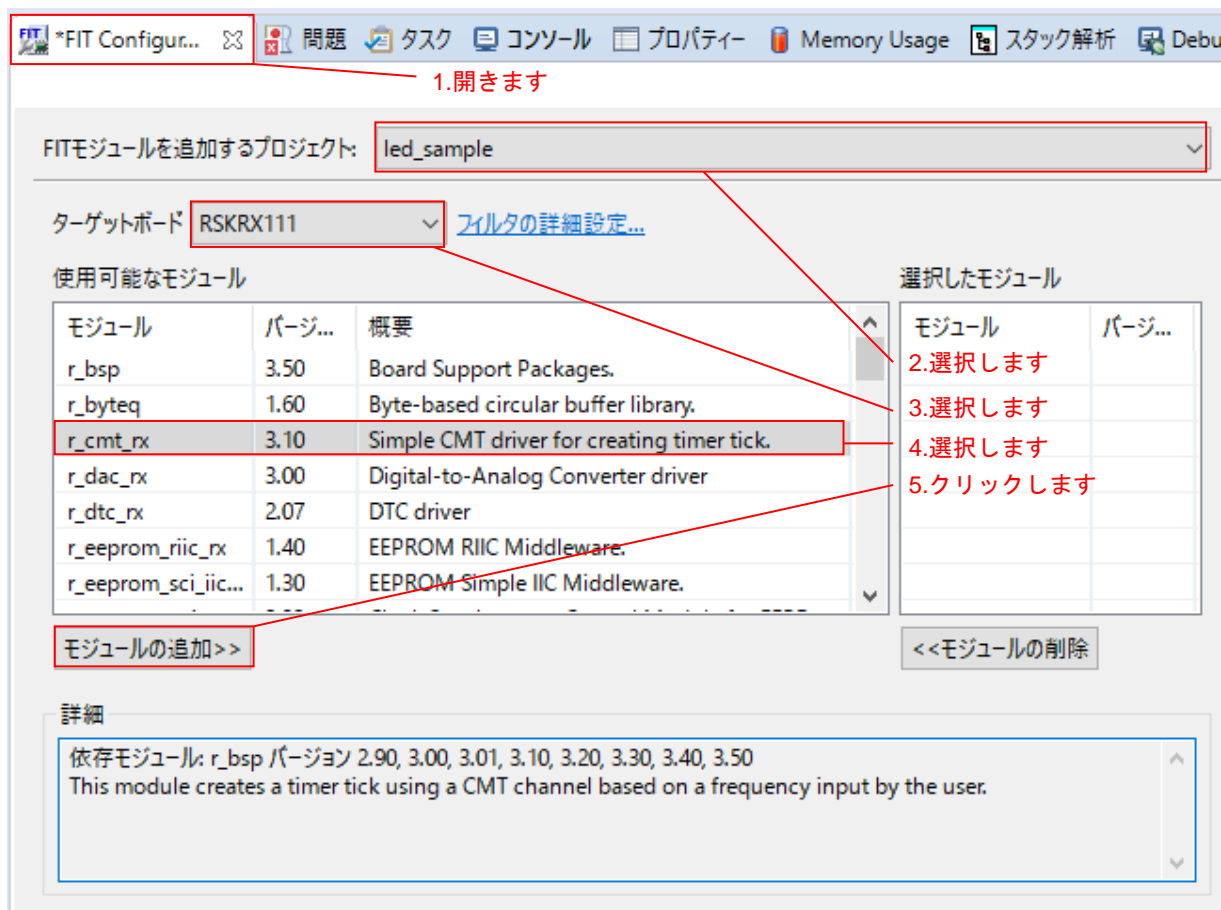


図 4-31 モジュールの追加

(c) コードの生成

「モジュールの追加」で追加したモジュールが「選択したモジュール」に追加されます。

1. 「選択したモジュール」 (注 1) に「r_bsp」と「r_cmt_rx」が追加されていることを確認します。
2. 「コードの生成」をクリックします。

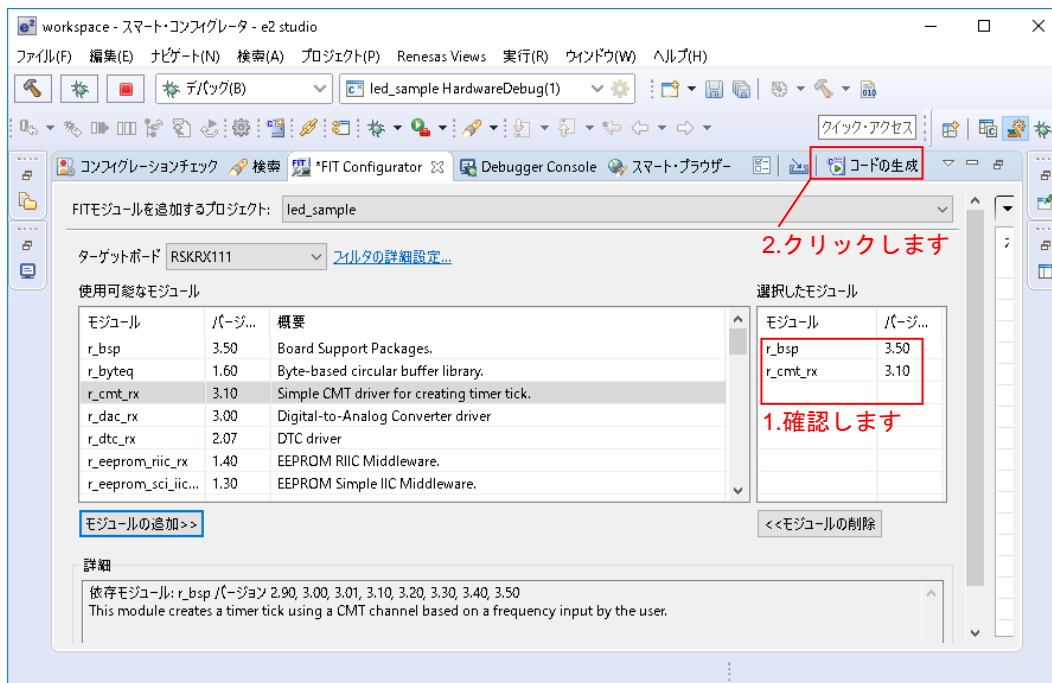




図 4-32 コードの生成

注1：補足事項

「選択したモジュール」では、が表示される場合があります。は追加した FIT モジュールに Warning が発生したことを指し示すものです。Warning の内容は「コンソール」タブから確認できません。Warning が発生する主な原因は FIT モジュールと依存関係にある「r_bsp」のバージョン不一致です。更新頻度の高い「r_bsp」に対して、FIT モジュールの依存情報が更新されていない場合に発生します。更新された「r_bsp」は後方互換を持つため、この Warning は無視して問題ありません。

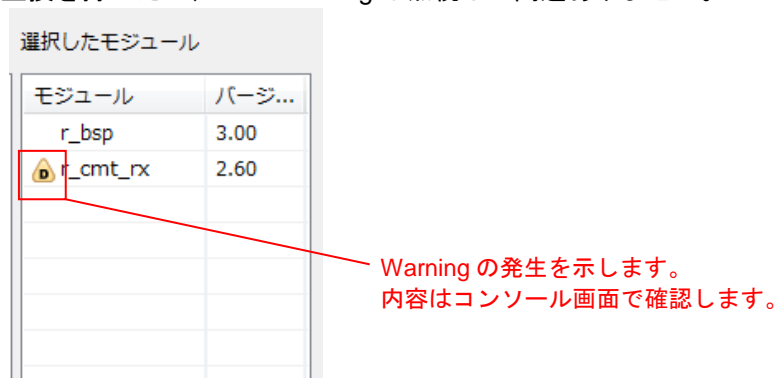


図 4-33 補足事項：選択したモジュール

CMT FIT モジュールが r_bsp ver.2.90 を指定している例です。

追加された r_bsp が ver.2.9 以降のバージョンの場合、後方互換のため、この Warning を無視することができます。

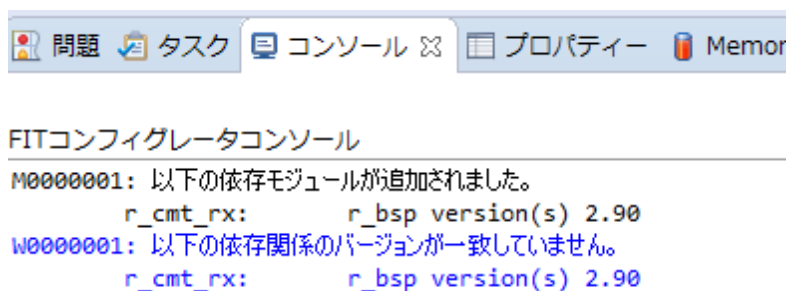


図 4-34 補足事項：コンソール

(d) コードの生成確認画面

「FIT コード生成」確認画面で「OK」をクリックします。

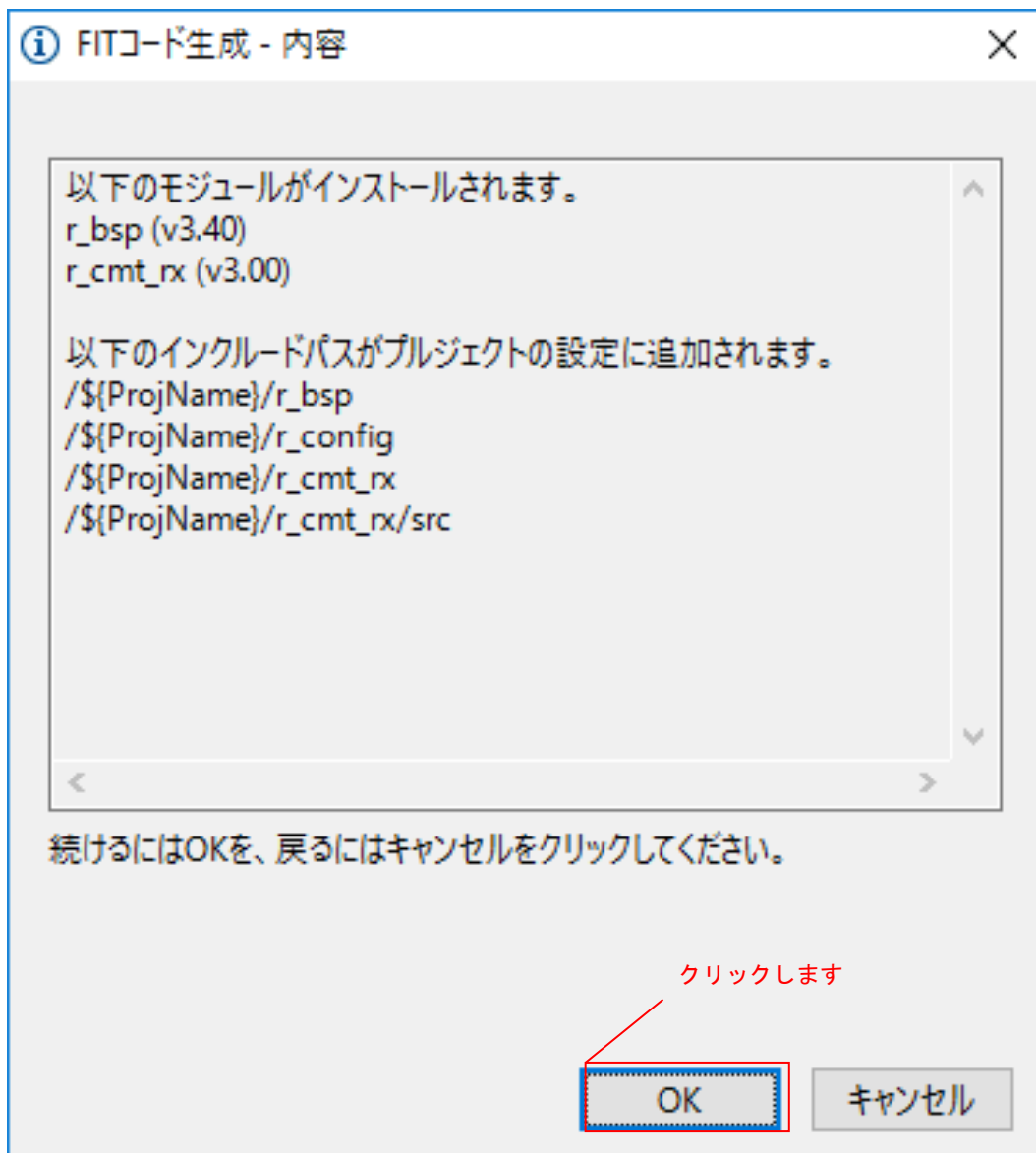


図 4-35 コードの生成確認画面

4.2 LED 点灯プログラムを作成する

コンペアマッチタイマを使用し、0.5 秒間隔で LED0 を点滅させるプログラムを作成します。

src/(プロジェクト名).c を開き、以下のように修正します（注1）。

```
#include "platform.h"
#include "r_cmt_rx_if.h"

#define RDP_LED_OFF 1U
#define RDP_LED_ON 0U

/* Define PODR for LED0. In the case of RSKRX65N-2MB it will be as follows. */
/* #define LED0          PORT7.PODR.BIT.B3 */
#define RDP_LED0          LED0

/* Define PDR for LED0_PDR. In the case of RSKRX65N-2MB it will be as follows. */
/* #define LED0_PDR      PORT7.PDR.BIT.B3 */
#define RDP_LED_PDR      LED0_PDR

/* LED Currently status */
uint32_t ledstatus = RDP_LED_OFF;

void call_back(void *pdata)
{
    if (ledstatus == RDP_LED_OFF)
    {
        /* Turn ON the LED0 If the status is LED_OFF */
        RDP_LED0 = RDP_LED_ON;
        ledstatus = RDP_LED_ON;
    }
    else
    {
        /* Turn OFF the LED0 If the status is LED_ON */
        RDP_LED0 = RDP_LED_OFF;
        ledstatus = RDP_LED_OFF;
    }
}

void main(void)
{
    uint32_t cmt_ch;

    /* LED0 off */
    RDP_LED0 = RDP_LED_OFF;
    /* Create of 0.5 second(2Hz) cyclic timer. */
    R_CMT_CreatePeriodic(2, &call_back, &cmt_ch);

    while(1);
}
```

図 4-36 サンプルプログラム

注1：スマート・コンフィグレータの場合、お使いの環境にあわせて7行目のPODRの設定と9行目のPDRの設定を行う必要があります。詳細はユーザーズマニュアル ハードウェア編、及び回路図をご覧ください。

4.3 プログラムをビルドし動作を確認する

作成したプログラムをビルドして、動作を確認します。

1. 「プロジェクト(P)」メニューの「プロジェクトをビルド(B)」をクリックします。

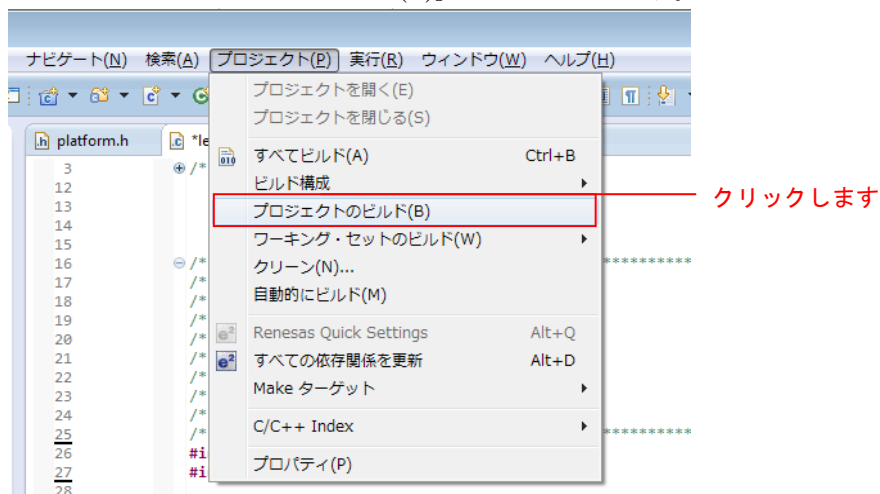


図 4-37 プロジェクトのビルド

2. ビルドが完了すると、「コンソール」ビューに以下のように表示されます。

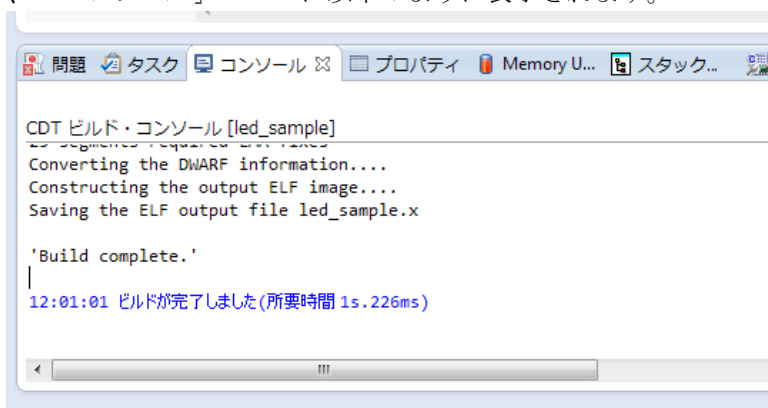



図 4-38 コンソール画面

3. 「実行(R)」メニューの「デバッグ構成(B)...」をクリックします。



図 4-39 デバッグの構成

4. 画面左側「Renesas GDB Hardware Debugging」の  をクリックし、「(プロジェクト名) HardwareDebug」をクリックします。
「Debugger」タブをクリックし、「Connection Settings」タブをクリックします。
「EXTAL 周波数」に「24.0000 (注1)」を入力し、「エミュレータから電源を供給する」を「いいえ (注2)」に変更します。
完了したら「デバッグ(D)」をクリックします。

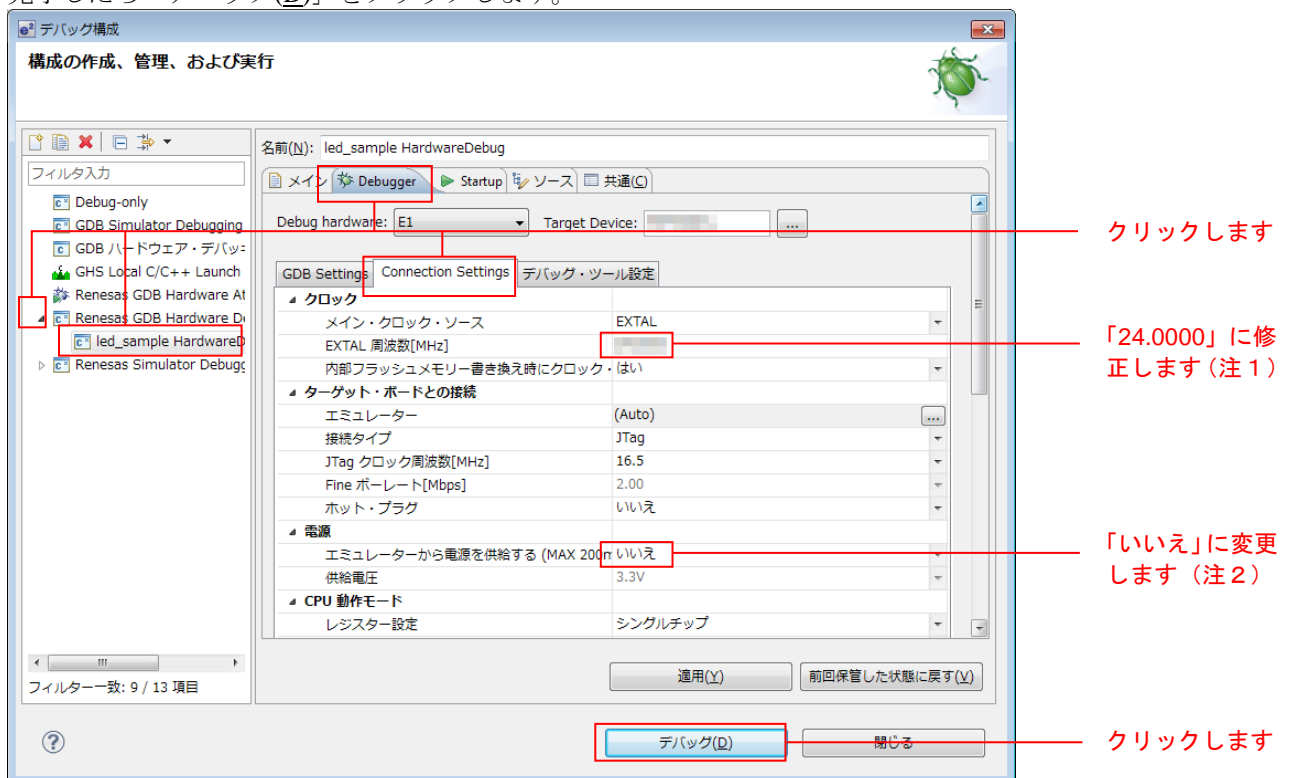


図 4-40 デバッグ構成

注1：Renesas Starter Kit+ for RX64Mを使用する場合の設定です。環境に合わせて見直してください。

注2：外部電源を使用する場合の設定です。エミュレータから電源を供給する場合は「はい」を選択してください。

5.以下のメッセージが表示されたら、「はい(Y)」をクリックします。

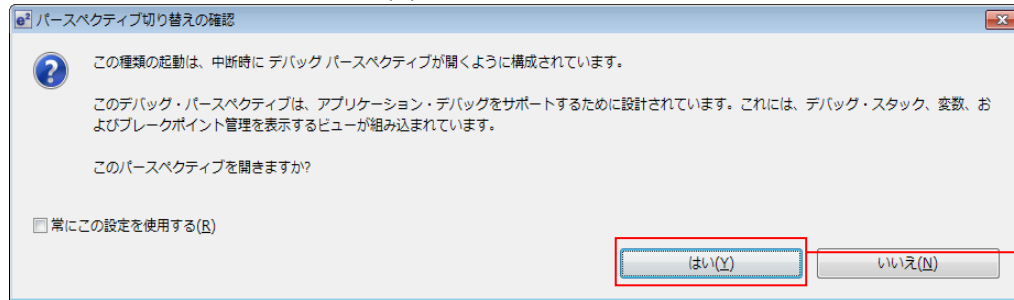


図 4-41 パースペクティブ切り替えの確認

6.ロードモジュールのダウンロードが完了すると、「デバッグ」パースペクティブが開きます。

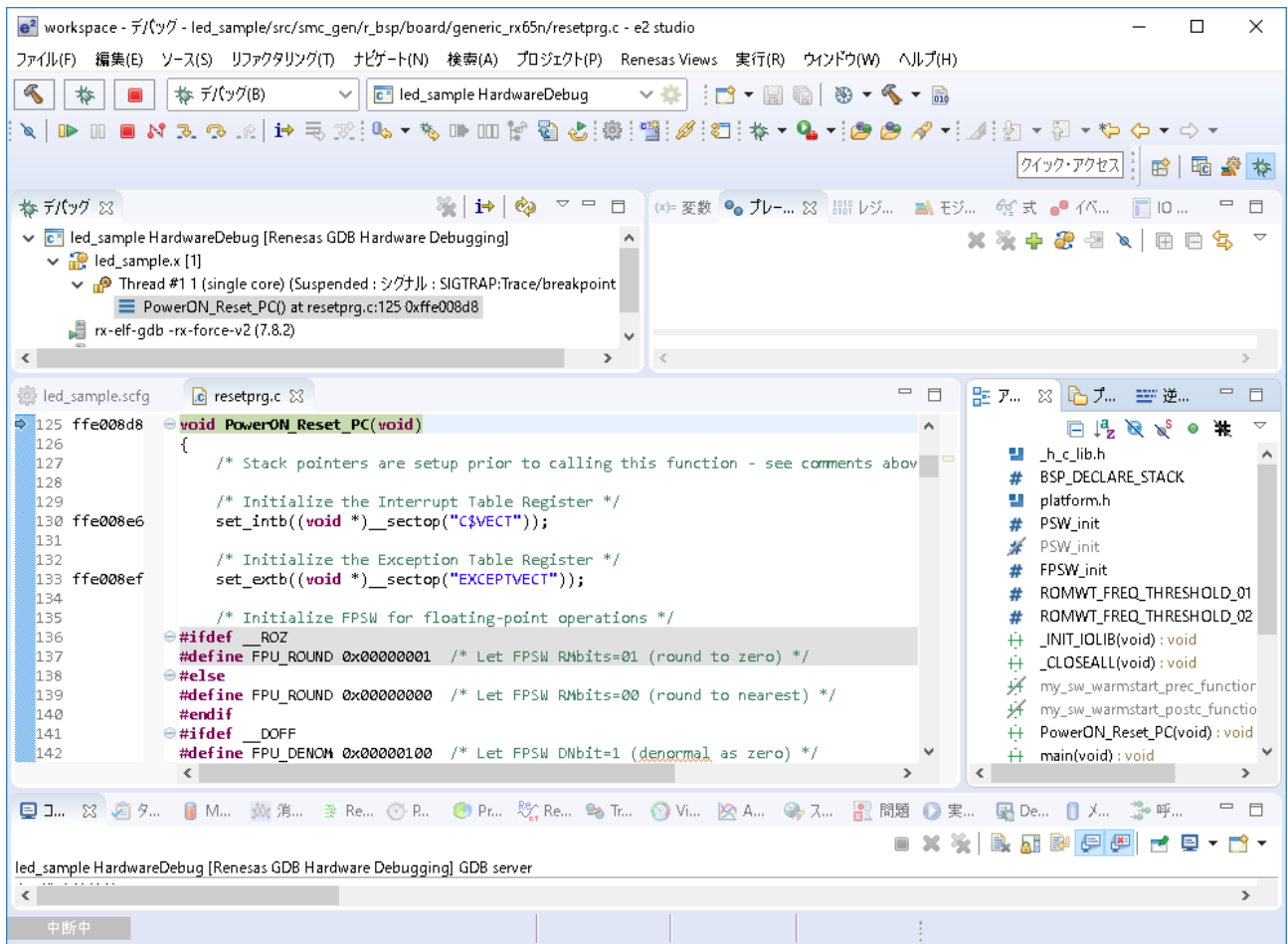


図 4-42 デバッグ画面

7. ツールバーの「再開」をクリックします。プログラムが実行され、**main** 関数の先頭でブレークします。

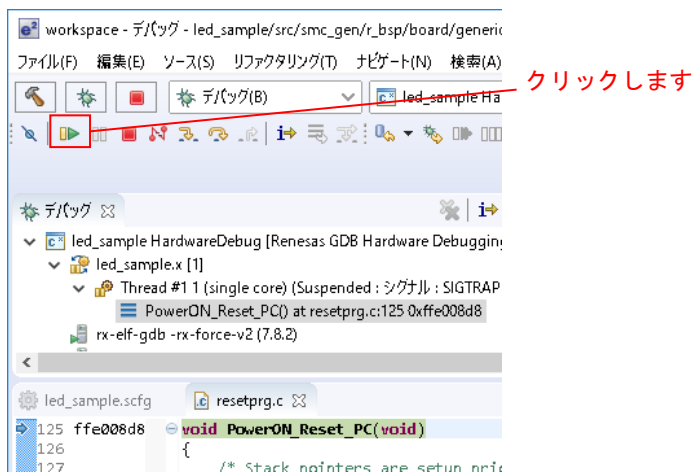


図 4-43 プログラムの再開

8. **main** 関数の先頭でブレークした後に、もう一度ツールバーの「再開」をクリックします。
プログラムが実行され、LED0 が 0.5 秒間隔で点灯と消灯を繰り返します。

5. RX Driver Package Application について

5.1 RX Driver Package Application の構成

RX Driver Package Application は、RX Driver Package を簡単に使って頂くためのサンプルアプリケーションプログラムです。RX Driver Package Application には、RX Driver Package に入っているデバイスドライバやミドルウェアを使って動作するアプリケーションプログラムと、そのアプリケーションをビルドするためのプロジェクトファイルが入っているので、すぐに評価を開始することができます。

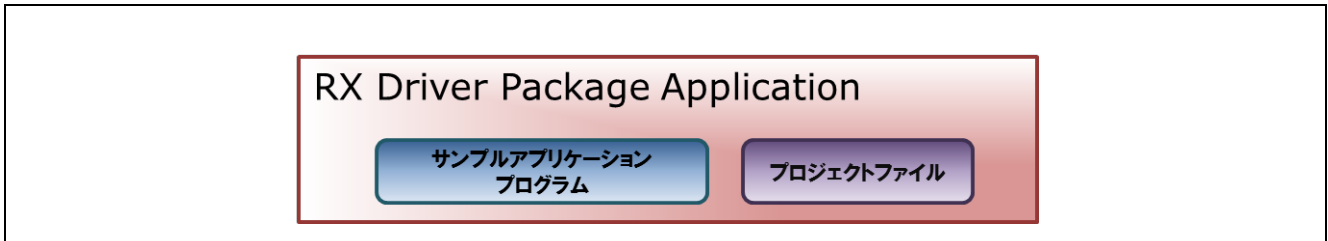


図 5-1 RX Driver Package Application の構成

RX Driver Package Application には、複数のドライバやミドルウェアを組み合わせるシステムプログラムや、RX Driver Package に入っているモジュール単体の評価プログラムなど、さまざまな種類を順次公開していく予定です。

最新の RX Driver Package Application の情報は、以下の URL のページの「RX Driver Package Application 対応製品一覧」を参照してください。

<https://www.renesas.com/rdp>

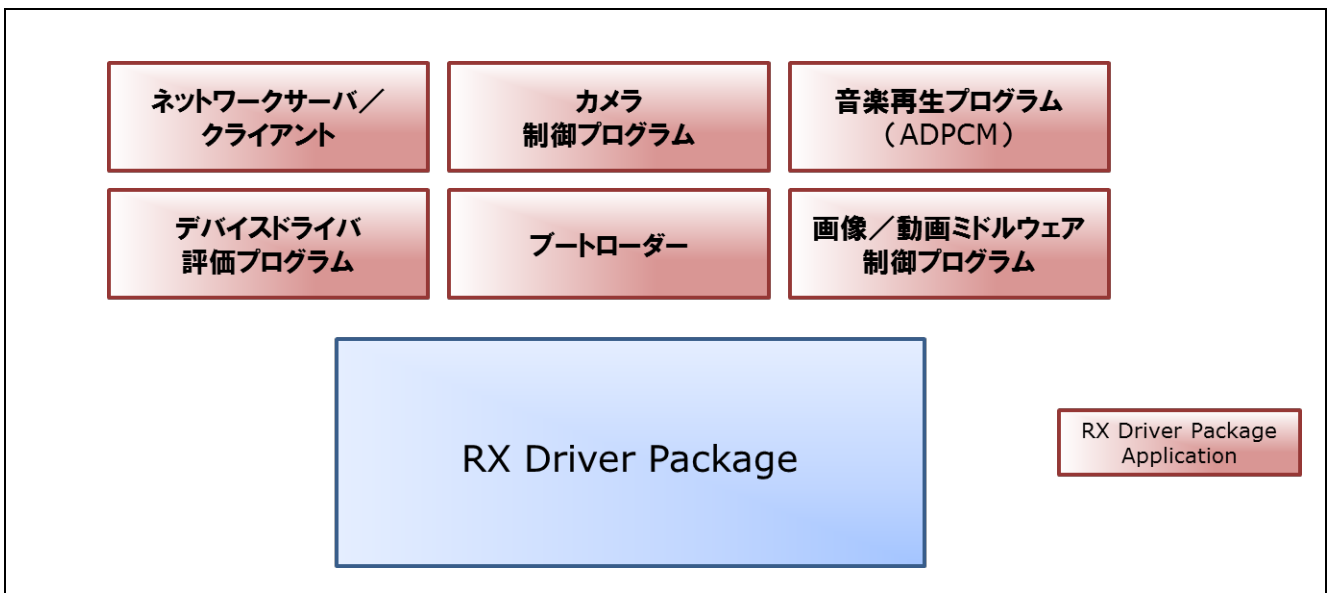


図 5-2 RX Driver Package Application の種類

6. 補足

6.1 製品版（有償）ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアについて

以下に、RXファミリ用の製品版（有償）ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアの一覧を示します。

最新の製品版（有償）ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアの情報は、以下のURLに示すミドルウェア／ドライバのページを参照してください。

ミドルウェア／ドライバのページ：<https://www.renesas.com/mw>

表 6-1 RXファミリ用の製品版（有償）ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアの一覧

| 製品版（有償） ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェア | URL | FITの 対応状況 |
|--|---|--------------|
| 組み込み用 TCP/IP M3S-T4-Tiny | https://www.renesas.com/mw/t4 | 対応済 |
| SDモード SDメモ리카ードドライバ SDモード SDIOドライバ RTM0RX0000DSDD | https://www.renesas.com/driver/rtm0rx0000dsdd | 対応済 |
| MMCモード・マルチメディアカード /Embedded MultiMediaCard(e・MMC)ド ライバ RTM0RX0000DMMC | https://www.renesas.com/driver/rtm0rx0000dmmc | 対応済 |
| FATファイルシステム ロングファイル名対応 VFAT有り版 R0MRX00FF00 | https://www.renesas.com/mw/r0mrx00ff00 | 未対応 |
| FATファイルシステム ショートファイル名のみ対応 VFAT無し版 R0MRX00FF01 | https://www.renesas.com/mw/r0mrx00ff01 | 未対応 |
| SPIモード MMC/SDメモ리카ードドライバ RTM0RX0000DMSD0 | https://www.renesas.com/driver/mmc_sd | 未対応 |

6.2 個別提供の無償ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアについて

以下に、ホームページから入手できない個別提供のRXファミリ用無償ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアの一覧を示します。

表 6-2 個別提供のRXファミリ用無償ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェアの一覧

| 個別提供の無償 ミドルウェア／ドライバ・ソフトウェア | URL | FITの 対応状況 |
|-------------------------------|---|--------------|
| データフラッシュドライバ M3S-DATFR1 | https://www.renesas.com/driver/datfr1 | 未対応 |
| データフラッシュドライバ M3S-DATFR2 | https://www.renesas.com/driver/datfr2 | 対応 |

6.3 サンプルプログラムについて

RX Driver Package は FIT モジュール群をパッケージングしたものであり、動作確認用のサンプルプログラムは同梱していません。サンプルプログラムが必要な場合、FIT モジュール単体のパッケージを別途ダウンロードしてください（注1）。FIT モジュール単体パッケージには「FITDemos」フォルダが用意されており、サンプルプログラムもしくはサンプルプロジェクトを同梱しています。

注1：ただし、FIT モジュールによってはサンプルプログラムを用意していない場合があります。

6.4 各 FIT モジュールの API 情報の格納場所について

プロジェクトに組み込んだ FIT モジュールの API 情報は、組み込んだ各 FIT モジュールフォルダの doc フォルダ内を参照してください。

6.5 ダウンロードした RX Driver Package の確認方法

ダウンロードが正常に実行された場合、「4.1.1(2)(c) (Smart Configurator)」、「4.1.2(2)(a) (FIT Configurator)」の説明にある「FIT モジュール・フォルダー・パス」で指定したフォルダに FIT モジュールが格納されます（通常は、C:\Renesas\E2_studio\FITModules です）。

また、「FITModules\Downloaded」フォルダには本パッケージの ZIP ファイルが格納されます。

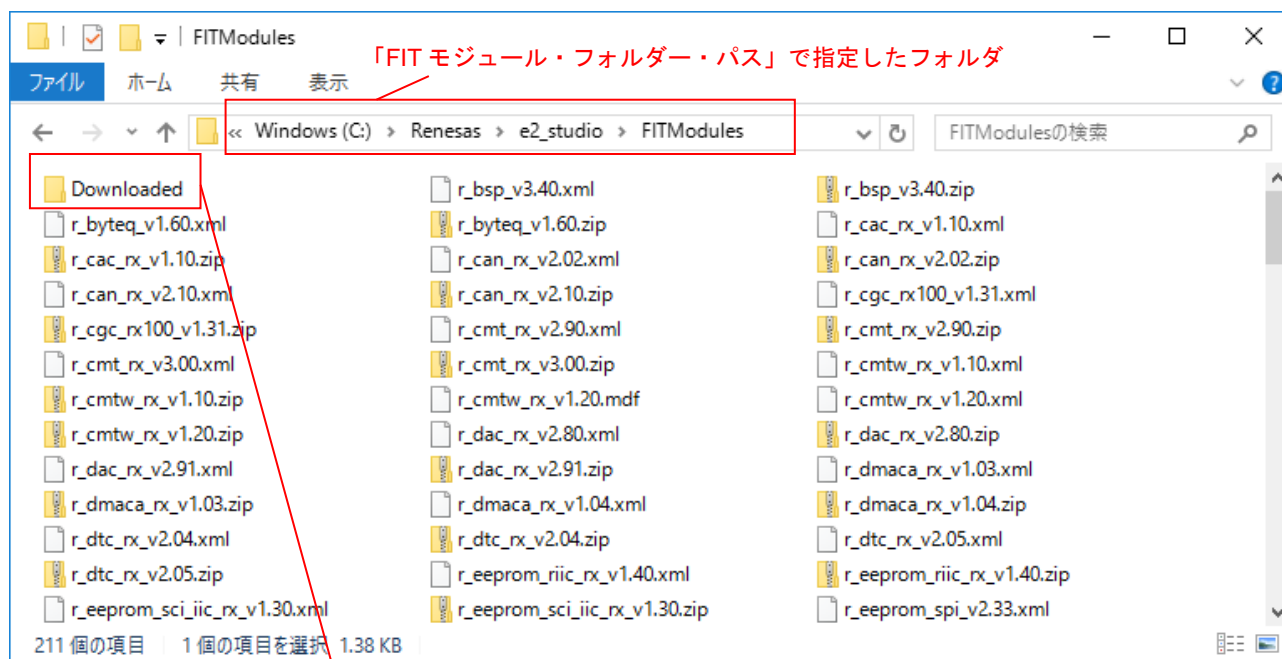


図 6-1 RX Driver Package

本パッケージの ZIP ファイルが格納されています
(an_r01an****j****_rx_fit.zip)

6.6 FIT モジュールの更新方法

FIT モジュールの更新方法を以下に説明します。

6.6.1 説明で使用する環境

例として、Ver.アップした IRQ FIT モジュール Ver.9.99 (r_irq_rx_v9.99) を使用します。

6.6.2 FIT モジュールを追加する

「FIT モジュール・フォルダー・パス」で指定したフォルダに対象の FIT モジュールを追加します。

なお、格納するファイルとしては、ZIP ファイル r_***_v*.**.zip と XML ファイル r_***_v*.**.xml は必須、MDF ファイル r_***_v*.**.mdf は、存在する場合必須です。

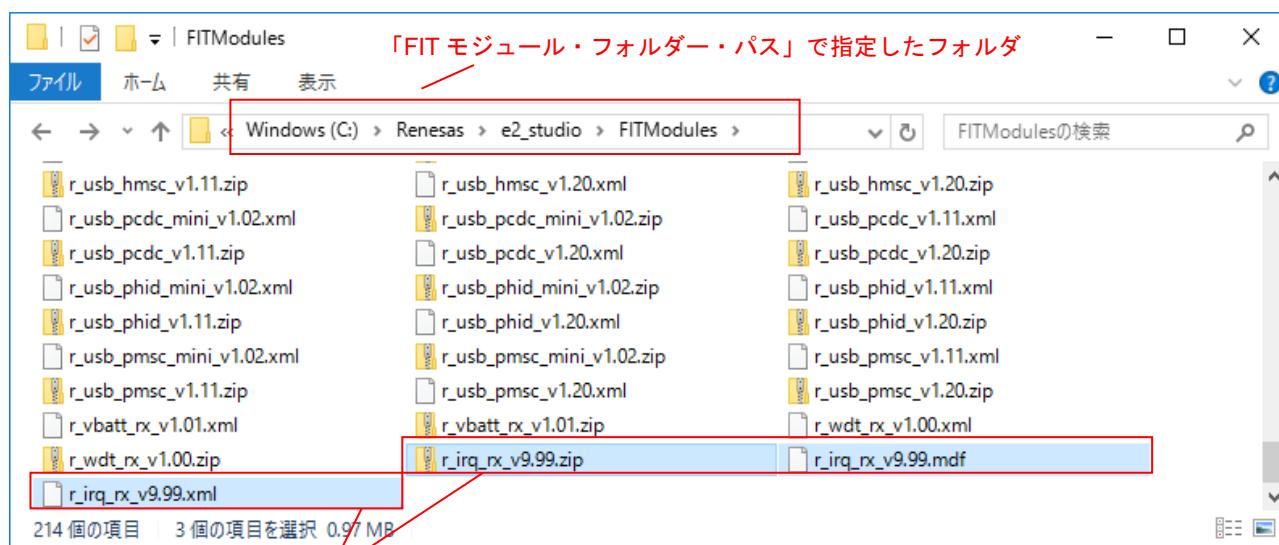


図 6-2 FIT モジュールを追加する

ファイルを追加します

6.7 追加された FIT モジュールを確認する

6.7.1 Smart Configurator の場合

e²studio を再起動して下さい。モジュールが最新の状態に更新されます。

(1) ソフトウェアコンポーネントの追加画面を表示する

1. 「led_sample.scfg」から「コンポーネント」タブを選択してください。
2. 「ソフトウェアコンポーネント設定」画面が表示されますので、「コンポーネントの追加」ボタンをクリックしてください。

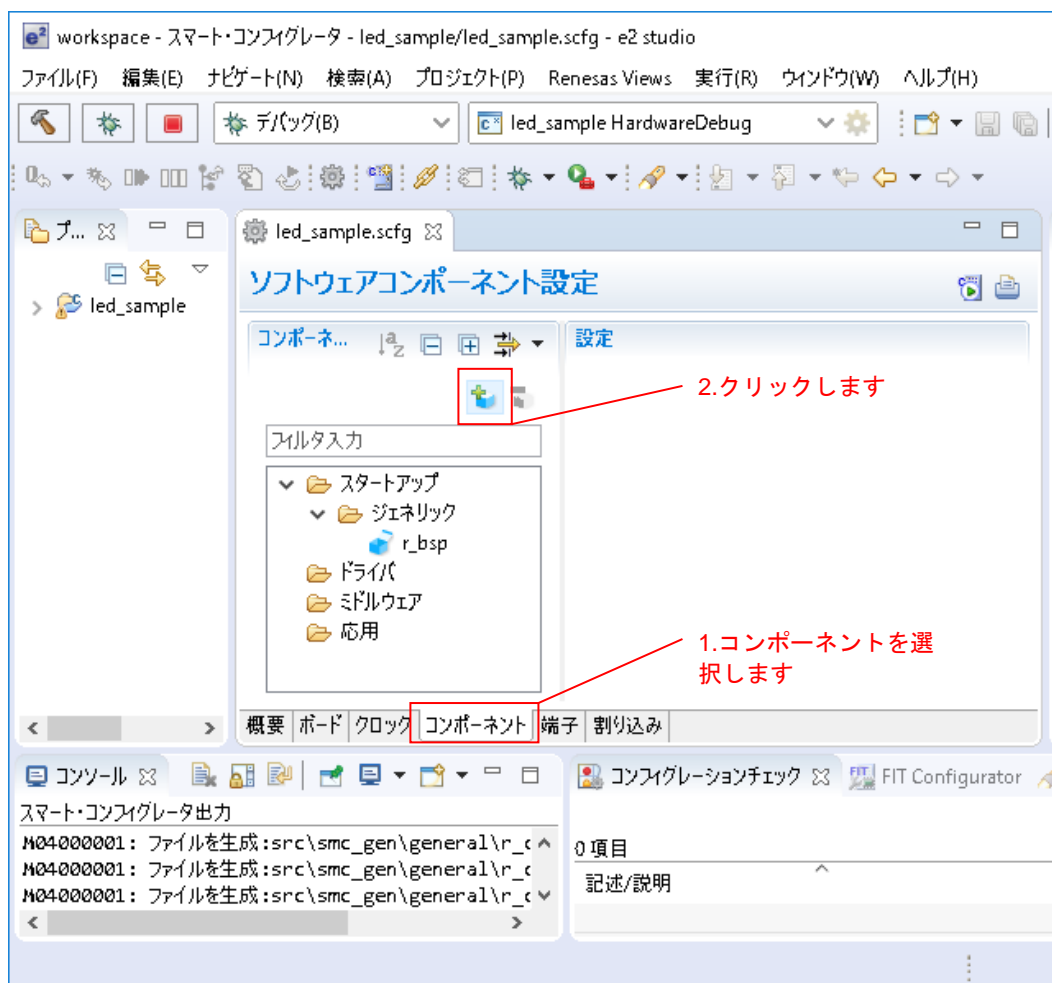


図 6-3 ソフトウェアコンポーネントの追加画面を表示する

(2) 最新の FIT モジュールを確認する

- ソフトウェアコンポーネントの選択画面に、最新 Ver.が表示されます。
「4.1.1(3)」を参照し、対象の FIT モジュールをインストールしてください。

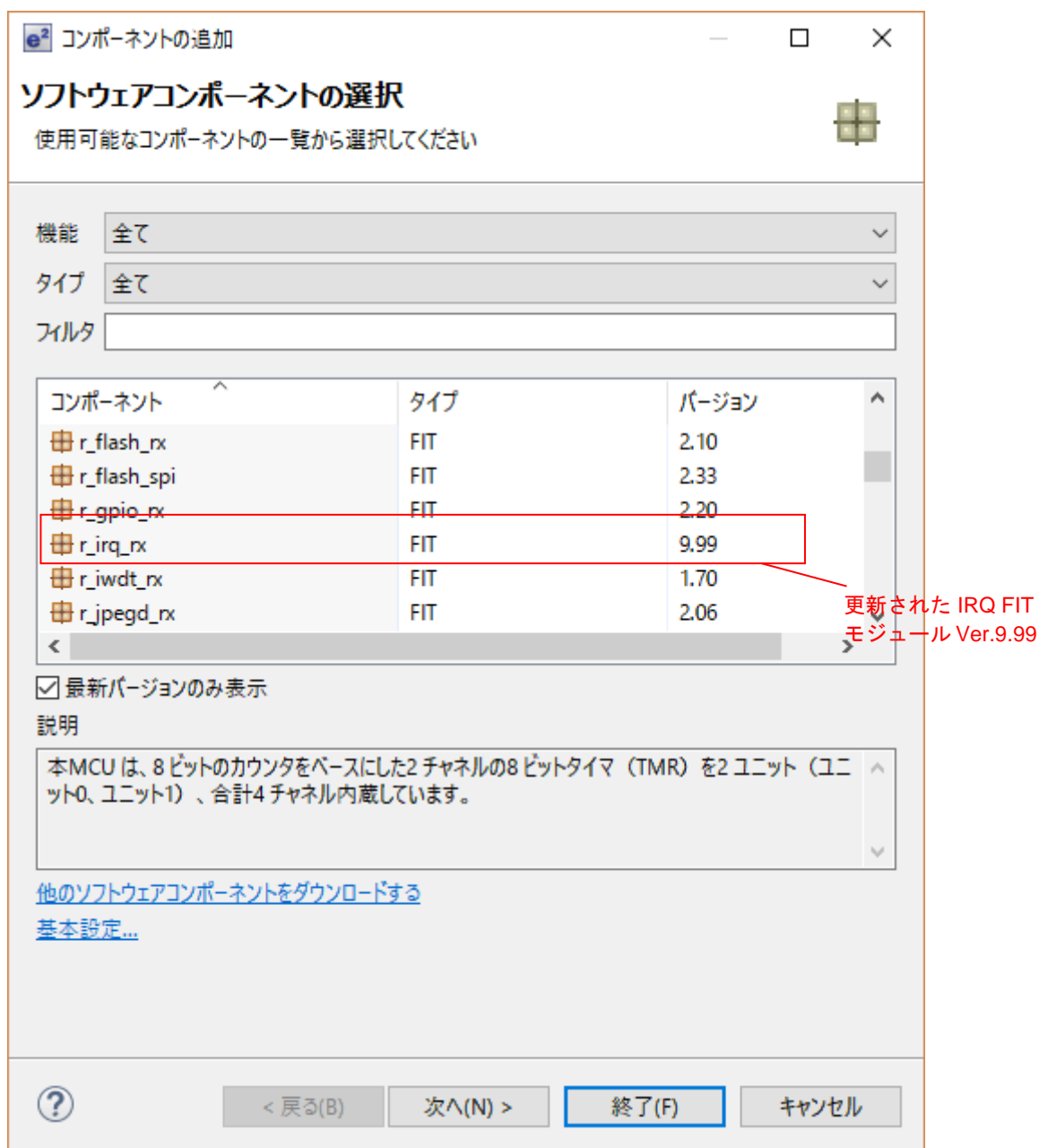


図 6-4 最新の FIT モジュールを確認する

(3) 旧 Ver.を選択する場合

1. 最新バージョンのみ表示チェックを外すと、旧 Ver.が表示されます。
2. リストから目的のバージョンを選択します。

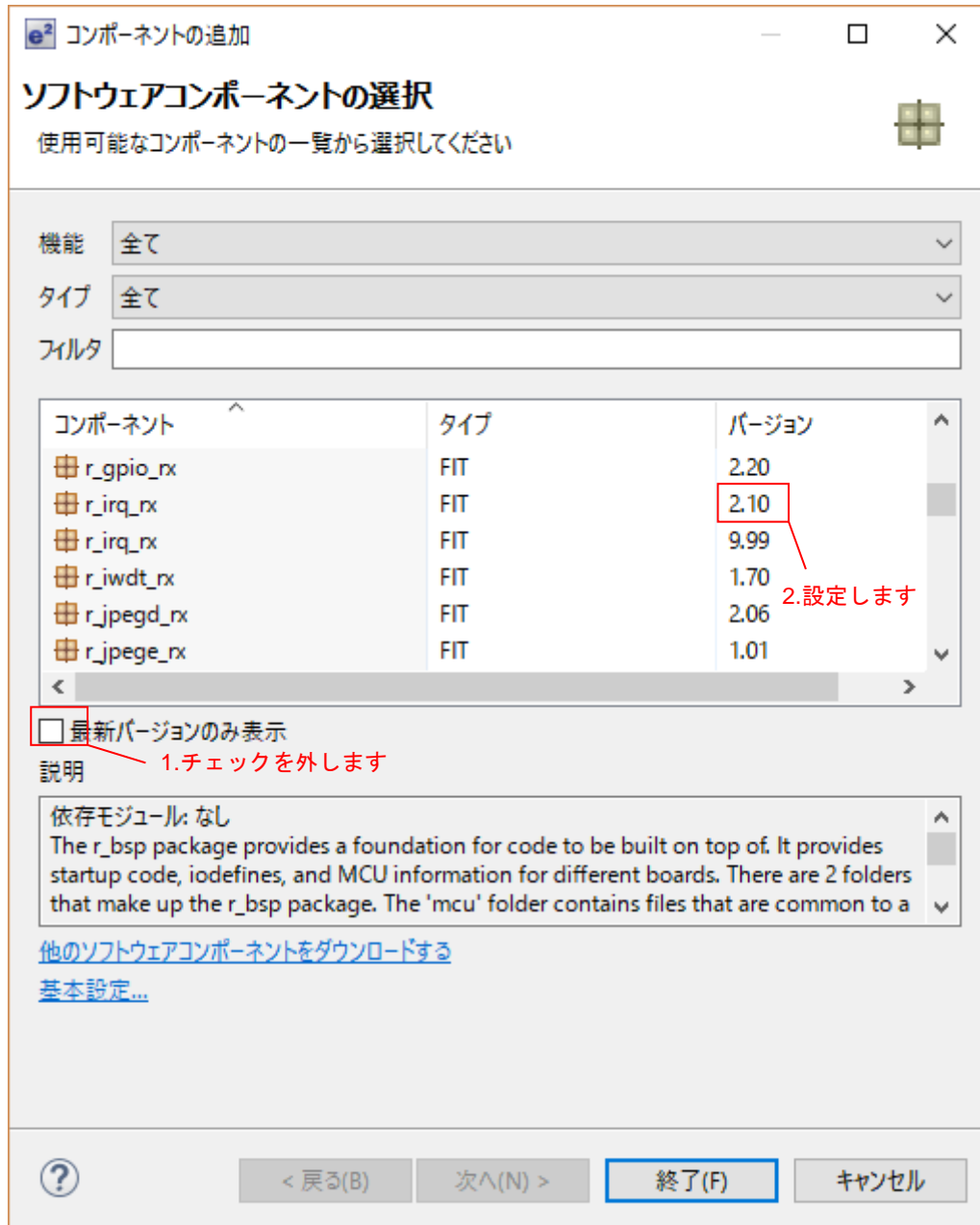


図 6-5 旧 Ver.を選択する場合

6.7.2 FIT Configurator の場合

FIT Configurator の画面をクリアし、開きなおしてください。モジュールが最新の状態に更新されます。

(1) FIT Configurator 画面を最新の状態に更新する

1. FIT Configurator タブを閉じてください。
2. Renesas Views から FIT Configurator を開いてください。

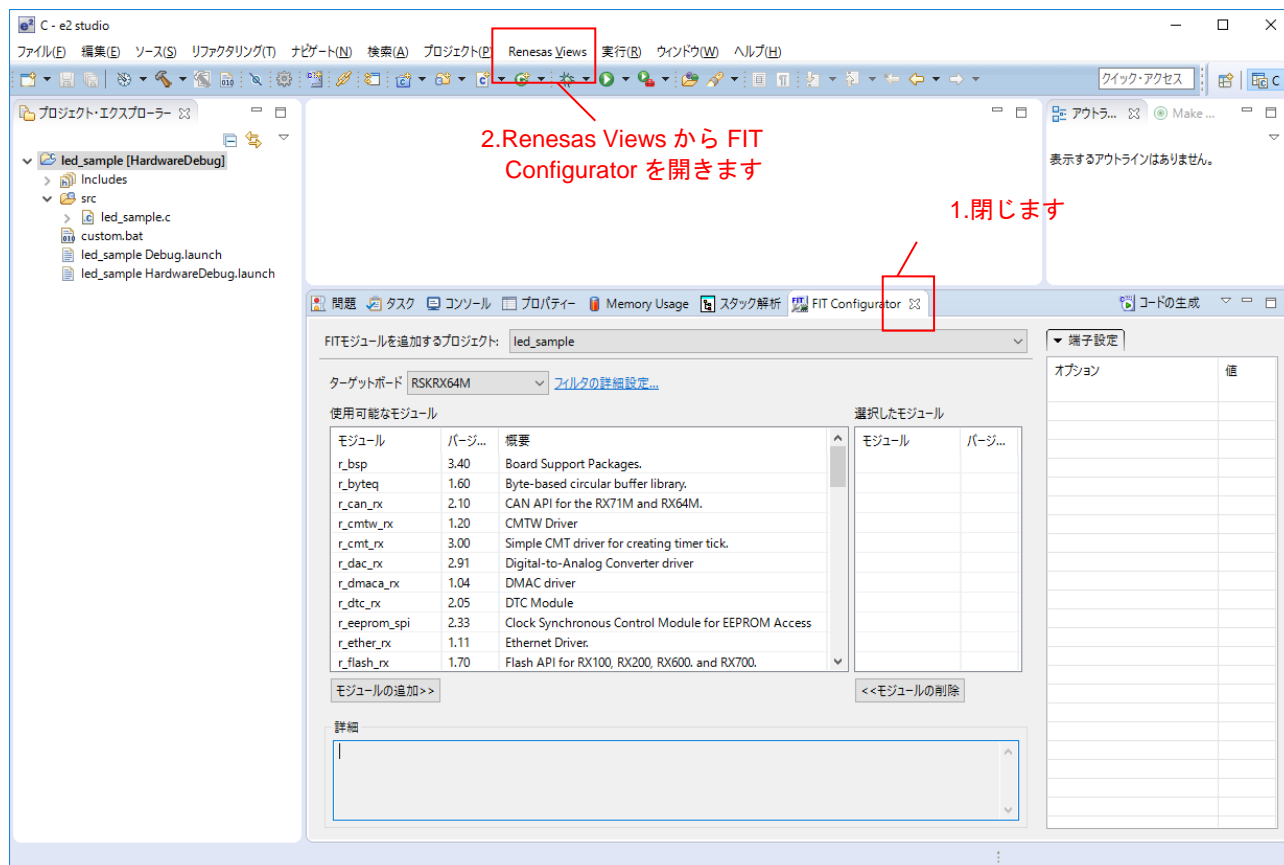


図 6-6 FIT Configurator 画面を最新の状態に更新する

(2) 最新の FIT モジュールを確認する

1. FIT Configurator 画面に、最新 Ver.が表示されます（注1）。

「4.1.2(3)」を参照し、必要な FIT モジュールをインストールしてください。

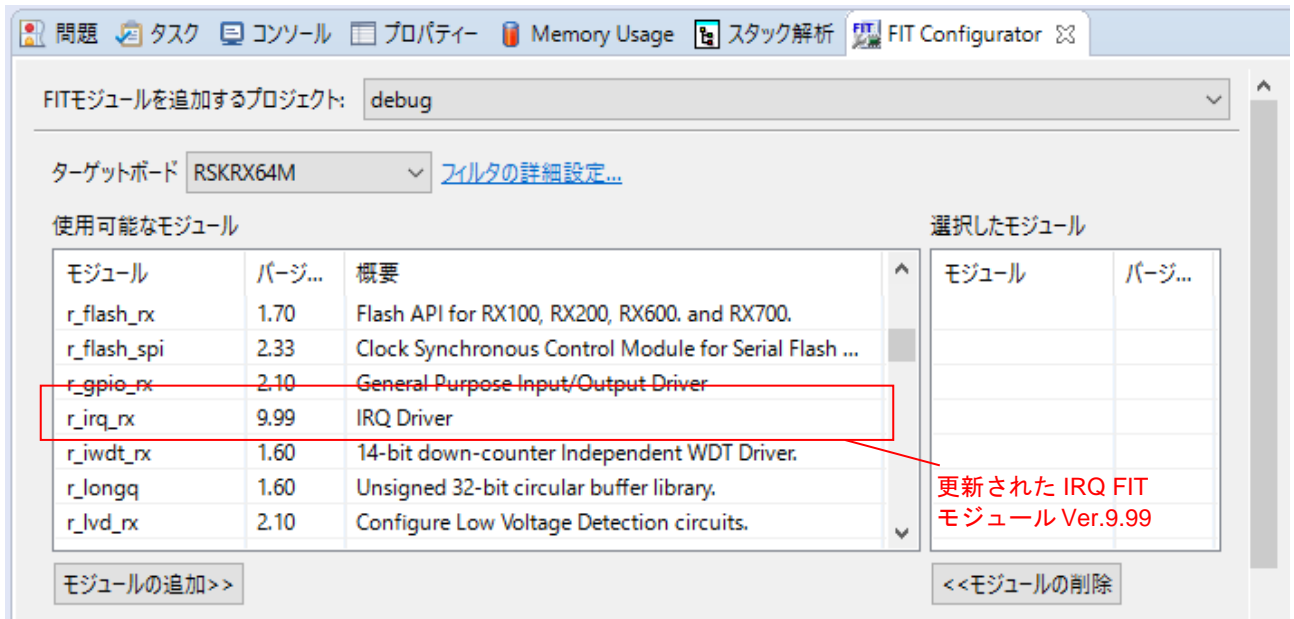


図 6-7 最新の FIT モジュールを確認する

(3) 旧 Ver.を選択する場合

1. FIT モジュールの Ver.番号をクリックするとプルダウンが表示されます。
2. プルダウンをクリックすると旧 Ver.が表示されます。
3. プルダウンから目的のバージョンを選択します。

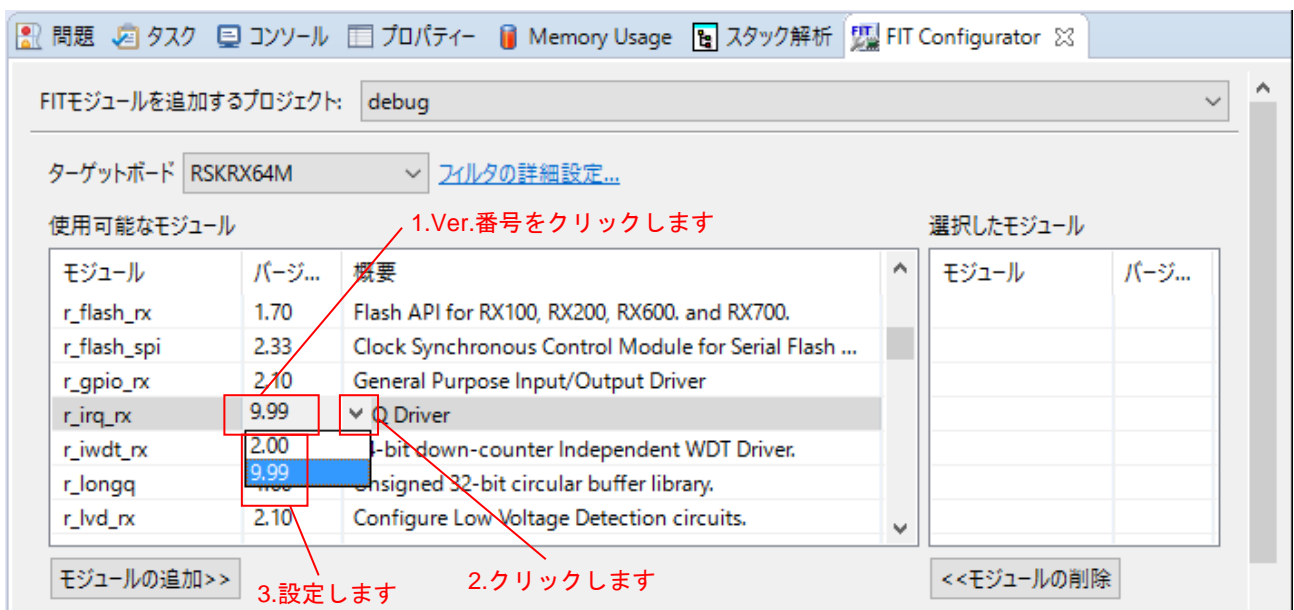


図 6-8 旧 Ver.を選択する場合

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問い合わせ先

<http://japan.renesas.com/contact/>

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

改訂記録

| Rev. | 発行日 | 改訂内容 | |
|------|------------|------|------|
| | | ページ | ポイント |
| 1.13 | 2017.10.20 | － | 初版発行 |
| | | | |

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。

外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

【注意】リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。

リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

同じグループのマイコンでも型名が違っていると、内部ROM、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれかに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 2. 当社製品、本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
 3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
 4. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、その他の不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、
金融端末基幹システム、各種安全制御装置等
当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
 6. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を、(1)核兵器、化学兵器、生物兵器等の大量破壊兵器およびこれらを運搬することができるミサイル（無人航空機を含みます。）の開発、設計、製造、使用もしくは貯蔵等の目的、(2)通常兵器の開発、設計、製造または使用の目的、または(3)その他の国際的な平和および安全の維持の妨げとなる目的で、自ら使用せず、かつ、第三者に使用、販売、譲渡、輸出、賃貸もしくは使用許諾しないでください。
当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 10. お客様の転売、貸与等により、本書（本ご注意書きを含みます。）記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は一切その責任を負わず、お客様にかかる使用に基づく当社への請求につき当社を免責いただきます。
 11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 12. 本資料に記載された情報または当社製品に関し、ご不明点がある場合には、当社営業にお問い合わせください。
- 注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。
- 注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.3.0-1 2016.11)



ルネサスエレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス株式会社 〒135-0061 東京都江東区豊洲3-2-24（豊洲フォレシア）

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記どうぞ。
総合お問合せ窓口：<https://www.renesas.com/contact/>